

s t u d y

G

e

2024年度
(令和6年度)

履修の手引き

人間環境大学

環境科学部

フィールド生態学科

環境データサイエンス学科

2

0

2

4

2024年度(令和6年度)人間環境大学岡崎キャンパス 事務取扱時間・学内施設利用時間

事務取扱時間

施設等	期間	授業期間・試験期間（前後期共通）	夏季、冬季、春季休業期間 (8/12~8/16、12/28~1/3 は全日休業)
教務課 総務課 学生支援課 就職・進路相談室		月～金 9:00～17:00 土 9:00～12:30 日祝 休業（ただし、祝日が授業日の場合は除く） ※学内行事によって事務窓口が閉鎖する場合があります	月～金 9:00～17:00 土 原則休業 日祝 休業

学内施設利用時間

施設等	期間	授業期間・試験期間（前後期共通）	夏季、冬季、春季休業期間 (8/12~8/16、12/28~1/3 は全日休業)
食堂		月火木金 11:30～13:15 水 11:45～13:00 土日祝 休業 ※ただし、祝日が授業日の場合は営業	休業 ※ただし、集中講義期間中の営業日は、別途掲示
売店		月火木金 10:00～15:30 水 10:00～13:30 土日祝 休業 ※ただし、祝日が授業日の場合は営業	休業 ※ただし、集中講義期間中の営業日は、別途掲示
図書館		月～金 9:00～18:30 土 9:00～14:00 ※ただし、不定期開館のため、開館カレンダーを確認 日祝 休館	月～金 9:00～17:00 土 休館 日祝 休館
一般教室 (使用願要)		授業がある場合は原則使用不可 月～金 9:00～18:10 土 9:00～14:00 日祝 使用不可 ※事前に届け出があった場合は平日のみ 20:00 まで	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
PC教室		授業がある場合は原則使用不可 月～金 9:00～20:00 土 9:00～14:00 日祝 使用不可	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
体育館 (使用願要)		授業で使用していない時、昼休憩時間、 2号館で授業を行っていない時 月～金 9:00～18:10 土 9:00～14:00 日祝 使用不可 ※事前に届け出があった場合は平日のみ 20:00 まで	月～金 9:00～17:00 土 使用不可 日祝 使用不可
クラブハウス 弓道場 コンテナハウス		一般教室の利用時間に準ずる	同 左
バス運行		運行表は別途掲示案内どおり	運 休 (臨時運行の場合、掲示案内)

※祝日授業日の事務取扱時間・学内施設利用時間は、授業・試験期間の月曜日～土曜日の規定に準じます。

※長期休業期間中ならびに補講・集中講義期間中の施設利用時間については、別途掲示連絡します。

※補講・集中講義期間中の食堂・売店営業およびスクールバスの運行については、別途掲示連絡します。

※入学試験等学内行事のための登校禁止日については、別途掲示連絡します。

※臨時で利用時間が変更になる場合は、その都度掲示連絡します。

※一般教室・PC教室・体育館を平日 20:00 まで使用する場合は、原則 1 週間前までに届け出ること。

CONTENTS

学年暦	1
年間行事予定表	2

第Ⅰ部 教育課程の履修について

1. 人間環境大学建学の精神	5
2. 環境科学部の教育理念	5
3. 環境科学部の教育課程について	9
4. 環境科学部の教育システム	14
5. 学年度と授業について	17
6. 単位制について	20
7. 学修計画と履修登録について	22
8. 試験について	28
9. 成績評価について	30
10. 各種単位互換履修生制度について	32
11. 取得可能な資格について	34
12. 特別副専攻プログラム<環境教育イノベーション>	42

第Ⅱ部 カリキュラム

1. フィールド生態学科学科カリキュラム・科目表	45
2. 環境データサイエンス学科カリキュラム・科目表	50

第Ⅲ部

1. 専任教員一覧・非常勤講師一覧	56
2. 人間環境大学環境科学部フィールド生態学教育課程および履修方法に関する規程	58
3. 人間環境大学環境科学部環境データサイエンス学科教育課程および履修方法に関する規程	65
4. 人間環境大学授業に関する規程	68
5. 校舎案内図	71

2024年度(令和6年度) 学部学年暦

令和6年4月1日(月)～9月15日(日) …………… 前期

9月16日(月)～令和7年3月31日(月) …………… 後期

令和6年	4月3日(水)	入学式
	4月11日(木)	前期授業開始
	7月26日(金)	前期授業終了
	7月29日(月)～8月2日(金)	前期試験期間(予備日:8月5日(月))
	8月6日(火)	夏季休業開始
	9月9日(月)	前期成績発表
	9月19日(木)	夏季休業終了
	9月19日(木)	1年生後期オリエンテーション
	9月19日(木)	環境DS2年生後期オリエンテーション
	9月20日(金)	後期授業開始
	10月19日(土)～10月20日(日)	大学祭
	12月23日(月)	後期年内授業終了
	12月24日(火)～12月25日(水)	補講日
	12月28日(土)	冬季休業開始
令和7年	1月3日(金)	冬季休業終了
	1月8日(水)	卒業論文提出期限(卒業年次生)
	1月10日(金)	後期年明け授業開始
	1月24日(金)	後期授業終了
	1月27日(月)～1月31日(金)	後期試験期間(予備日:2月1日(土))
	3月1日(土)	卒業予定者発表
	3月1日(土)	在学生成績発表
	3月15日(土)	学位授与式
	3月17日(月)	春季休業開始
	3月31日(月)	学年終・後期終了

2024年度(令和6年度)
人間環境大学 岡崎キャンパス 年間行事予定表

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定	
								日付	内容
4		1	2	3 ^{入学式}	4 ^{オリ}	5 ^{オリ}	6	3(水) 入学式 4(木)-10(水) オリエンテーション期間 4(木)-17(水) 履修登録期間 7(日)- 8(月) 新入生ウェルカムキャンプ (1年生) 11(木) 前期授業開始 24(水)-26(金) 履修登録修正期間 29日(月) 授業日	
	7 ^{オリ}	8 ^{オリ}	9 ^{オリ}	10	11 ^①	12 ^①	13		
	14	15 ^①	16 ^①	17 ^①	18 ^②	19 ^②	20		
	21	22 ^②	23 ^②	24 ^②	25 ^③	26 ^③	27		
	28	29 ^③	30 ^③						
5				1 ^③	2	3	4	6(月) 授業日 6(月)-10(金) 履修取消申請期間 (前期・通年科目)	
	5	6 ^④	7 ^④	8 ^④	9 ^④	10 ^④	11		
	12	13 ^⑤	14 ^⑤	15 ^⑤	16 ^⑤	17 ^⑤	18		
	19	20 ^⑥	21 ^⑥	22 ^⑥	23 ^⑥	24 ^⑥	25		
	26	27 ^⑦	28 ^⑦	29 ^⑦	30 ^⑦	31 ^⑦			
6							1		
	2	3 ^⑧	4 ^⑧	5 ^⑧	6 ^⑧	7 ^⑧	8		
	9	10 ^⑨	11 ^⑨	12 ^⑨	13 ^⑨	14 ^⑨	15		
	16	17 ^⑩	18 ^⑩	19 ^⑩	20 ^⑩	21 ^⑩	22		
	23	24 ^⑪	25 ^⑪	26 ^⑪	27 ^⑪	28 ^⑪	29		
	30								
7		1 ^⑫	2 ^⑫	3 ^⑫	4 ^⑫	5 ^⑫	6	15(月) 授業日 (海の日) 7/29(月)-8/2(金) 前期試験期間 (予備日8/5)	
	7	8 ^⑬	9 ^⑬	10 ^⑬	11 ^⑬	12 ^⑬	13		
	14	15 ^⑭	16 ^⑭	17 ^⑭	18 ^⑭	19 ^⑭	20		
	21	22 ^⑮	23 ^⑮	24 ^⑮	25 ^⑮	26 ^⑮	27		
	28	29	30	31					
8					1	2	3	7/29(月)-8/2(金) 前期試験期間 (予備日8/5) 6(火) 夏季休業開始 7(水)/9(金) 追試験願提出期限/追試験許可証発行 19(月)-23(金) 前期追試験期間	
	4	5	6	7	8	9	10		
	11	12	13	14	15	16	17		
	18	19 ^追	20 ^追	21 ^追	22 ^追	23 ^追	24		
	25	26	27	28	29	30	31		
9	1	2	3	4	5	6	7	9(月) 前期成績発表 (学部) 14(土) 登校禁止日 19(木) 夏季休業終了/1年生後期オリエンテーション/環境DS2年生後期オリエンテーション 20(金) 後期授業開始 19(木)~26(木) 履修登録修正期間 23(月) 授業日	
	8	9	10	11	12	13	14		
	15	16	17	18	19	20 ^①	21		
	22	23 ^①	24 ^①	25 ^①	26 ^①	27 ^②	28		
	29	30 ^②							

 : 授業日 [(1)~(15)]
 : 試験日
 : 事務窓口休業
 1 (斜体数字) 日曜・祝日 ※祝日であっても授業が開講する場合があります。

2024年度(令和6年度)
人間環境大学 岡崎キャンパス 年間行事予定表

	日	月	火	水	木	金	土	行事予定			
								日付	内容		
10			1 ^②	2 ^②	3 ^②	4 ^③	5	4(金)~10(木) 5(土) 14(月) 18(金) 19(土)-20(日)	履修取消申請期間(後期科目) 登校禁止日 授業日 休講日 大学祭		
	6	7 ^③	8 ^③	9 ^③	10 ^③	11 ^④	12				
	13	14 ^④	15 ^④	16 ^④	17 ^④	18	19				
	20	21 ^⑤	22 ^⑤	23 ^⑤	24 ^⑤	25 ^⑤	26				
	27	28 ^⑥	29 ^⑥	30 ^⑥	31 ^⑥						
11						1 ^⑥	2	4(月) 9(土)	授業日 登校禁止日		
	3	4 ^⑦	5 ^⑦	6 ^⑦	7 ^⑦	8 ^⑦	9				
	10	11 ^⑧	12 ^⑧	13 ^⑧	14 ^⑧	15 ^⑧	16				
	17	18 ^⑨	19 ^⑨	20 ^⑨	21 ^⑨	22 ^⑨	23				
	24	25 ^⑩	26 ^⑩	27 ^⑩	28 ^⑩	29 ^⑩	30				
12	1	2 ^⑪	3 ^⑪	4 ^⑪	5 ^⑪	6 ^⑪	7	7(土)	登校禁止日		
	8	9 ^⑫	10 ^⑫	11 ^⑫	12 ^⑫	13 ^⑫	14				
	15	16 ^⑬	17 ^⑬	18 ^⑬	19 ^⑬	20 ^⑬	21				
	22	23 ^⑭	24 ^補	25 ^補	26	27	28			24(火)-25(水) 12/28(土)-1/3(金)	補講日 冬季校舎閉鎖(学生登校禁止)
	29	30	31								
1			1	2	3	4		12/28(土)-1/3(金) 8(水) 9(木)	冬季校舎閉鎖(学生登校禁止) 卒業論文提出期限(学部卒業年次生) 修士論文提出期限(修士2年生)		
	5	6	7	8	9	10 ^⑭	11				
	12	13	14 ^⑮	15 ^⑮	16 ^⑮	17	18			17(金)-19(日)	学生登校禁止日
	19	20 ^⑯	21 ^⑯	22 ^⑯	23 ^⑯	24 ^⑯	25				
	26	27	28	29	30	31				31(金)	修士論文研究計画書提出期限(修士1年生)
2							1	3(月)-10(月) 7(金)-10(月) 4(火) 7(金) 13(木)-19(水)	卒業論文口頭試問期間 修士論文口頭試問期間 追試験願提出期限 追試験許可証発行/再試験該当者発表/再試験願提出期限/再試験許可証発行 追試験・再試験		
	2	3	4	5	6	7	8				
	9	10	11	12	13 ^{追再}	14 ^{追再}	15				
	16	17 ^{追再}	18 ^{追再}	19 ^{追再}	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28					
3							1	1(土) 10(月) 15(土) 17(月) 24(月) 31(月)	卒業・修了予定者発表 在学生成績発表 登校禁止日 学位授与式(学部・大学院) 春季休業開始 登校禁止日 学年終・後期終了		
	2	3	4	5	6	7	8				
	9	10	11	12	13	14	15				
	16	17	18	19	20	21	22				
	23	24	25	26	27	28	29				
	30	31									

□ : 授業日〔①~⑮〕

□ : 試験日

1 (斜体数字) 日曜・祝日 ※祝日であっても授業が開講する場合があります。

□ : 事務窓口休業

第Ⅰ部

教育課程の履修について

1.人間環境大学建学の精神

人間環境学の探求

2.環境科学部の教育理念

本学の理念と目的

人間環境大学は、人間環境学を理念とし、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的とする。(学則第1条)

環境科学部の人材養成に関する目的、その他教育研究上の目的

環境科学部では、自然環境と社会環境を総合的にとらえる学問として「環境科学」を位置づけ、その基盤のもと、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解する「環境科学」の見地から、環境問題を、自然、社会、情報の側面からとらえ、課題を深く理解し、分析し、SDGs (Sustainable Development Goals) を達成していくことを目的として、教育研究を行う。このことを通して、「動物・植物・生態系機能や社会・データサイエンスに関する専門知識と、社会や情報、環境全般に関する基礎知識を有し、自然共生社会や持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」を育成することを目的として、環境科学部のディプロマ・ポリシーを設定した。

この環境科学部の教育研究の目的における養成人材像と環境科学部のディプロマ・ポリシーとの関係については、養成人材像の「動物・植物・生態系機能や社会・データサイエンスに関する専門知識と、社会や情報、環境全般に関する基礎知識を有する人材」がディプロマ・ポリシー①「環境問題全般に関する幅広い視野と、自然や社会、情報の専門的な知識を持ち、持続可能な社会の構築に貢献する力を有する」と、養成人材像の「広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」がディプロマ・ポリシー②「自然環境や国際社会の課題を常に意識し、社会で求められる情報リテラシー、コミュニケーション力を備え、積極的に課題解決に取り組むことができる」およびディプロマ・ポリシー③「フィールドから情報を収集し、修得したデータ解析技術を用いて、新しい価値を創造できる」と相関している。

環境科学部の3つの方針

学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の三つの能力を以って卒業要件とする。

- ①環境問題全般に関する幅広い視野と、自然や社会、情報の専門的な知識を持ち、持続可能な社会の構築に貢献する力を有する。
- ②自然環境や国際社会の課題を常に意識し、社会で求められる情報リテラシー、コミュニケーション力を備え、積極的に課題解決に取り組むことができる。
- ③フィールドから情報を収集し、修得したデータ解析技術を用いて、新しい価値を創造できる。

・フィールド生態学科

フィールド生態学科は、環境科学部のディプロマ・ポリシーおよび本学科の人材養成像「動物・植物・生態系機能に関する専門的知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する。

- ①生態学に関する幅広い基礎知識を有しており、動物、植物、生態系機能のいずれかに関する生態学的な専門的知識を有している。

- ②人間社会や環境情報に関する幅広い基礎知識を有する。
- ③自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる。
- ④フィールドにおける自然環境調査を、計画し実行する能力を有している。

・環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科は、環境科学部のディプロマ・ポリシーおよび本学科の人材養成像「社会・データサイエンスに関する専門知識と、社会や情報、環境全般に関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と鋭い洞察力、柔軟な思考力によって、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する。

- ①環境科学を基盤とした、社会科学もしくはデータサイエンス学の専門的知識を有している。
- ②人間社会や自然環境から得られる情報を収集し、適切に分析する能力を培い、新しい価値を創造できる。
- ③持続可能な社会の実現に向けて、自然・生態系など人間社会と自然環境に関する素養と幅広い知識を有する。
- ④環境問題を含む自然・社会・情報環境における国内外の課題に目を配り、多角的な視点と柔軟な思考力、コミュニケーション力を備え、積極的な行動力により、課題解決に取り組むことができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学の建学の精神である『人間環境学の探求』に則り、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材の育成といった本学の教育の理念を基盤として、環境科学部の教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を、『自然環境と社会環境を総合的にとらえる学問として「環境科学」を位置づけ、その基盤のもと、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解する「環境科学」の見地から、環境問題を、自然、社会、情報の側面からとらえ、課題を深く理解し、分析し、SDGs（Sustainable Development Goals）の達成に向けて行動できる人材を育成する』と設定する。

・フィールド生態学科

フィールド生態学科では、動物・植物・生態系機能に関する専門知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。中核となるフィールド生態科目には、陸生動物生態、水生動物生態、植物生態の3領域に、生態系機能評価を合わせた4領域の科目を用意し、フィールド生態学共通の学術基盤と解析手法を得るのに必要な科目と、専攻する領域の科目を修得させることで、自然環境全体を見通すことができる教養と、自然環境から必要なデータを得て解析する技術と、特定領域について特化した専門知識を身に付けさせる。

フィールド生態学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように設定する。

- ①生態学に関する幅広い基礎知識と動物・植物・生態系機能のいずれかに関する専門知識を身につけるため、フィールド生態科目を配置する。
- ②社会や情報に関する基礎知識を身につけるため、環境データサイエンス科目を配置する。
- ③柔軟な思考力を身につけ、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる能力を身につけるため、諸課題を総合的にとらえ、社会で活躍するための基礎力を修得する学部共通科目を配置する。
- ④広い視野をもち、異分野に関する知識を理解するため、学部共通科目として複数分野からなる科目群を配置する。
- ⑤フィールドにおける自然環境調査を計画し実行能力する能力を身につけるため、フィールド生態科目として、実践的な実習科目を配置する。

・環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科では、環境情報・社会環境に関する基礎知識と、ICT（Information and Communication Technology）や社会活動に関する専門知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力により社会の発展と環境保全のバランスを考慮した提案と行動ができる人材を育成する。中核となる環境データサイエンス科目では、環境情報、社会環境の2領域の科目を用意し、環境データサイエンスの体系的な学修に必要な共通必修科目と、専攻する領域の専門科目を修得させる。特に、国内外における少人数制フィールド調査実習や、プロジェクトベースのデータ解析実習において、実践的かつ専門的なスキルを修得させる。

環境データサイエンス学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）を以下のように設定する。

- ①環境学・情報学・社会科学に関する幅広い基礎知識と、環境情報と社会環境のいずれかに関する専門知識を身につけるための、環境データサイエンス科目を配置する。
- ②国内外の文化の理解や地域社会との交流により、自ら課題を発見する能力を養うための、少人数制による社会フィールド調査やデータ解析演習などの実践的な実習科目を多数配置する。
- ③多様化する環境問題や地域社会の諸問題に関心を持ち、自らデータを収集し分析する情報技術を修得し、環境と調和した人間社会を創造できる実践的な力を身につけるため、環境データサイエンス共通科目を配置する。
- ④動物・植物・生態系機能に関する基礎知識を身につけるため、フィールド生態科目を配置する。
- ⑤異分野を含めた多角的な視野と柔軟な思考力、コミュニケーション力、課題解決のための積極的な行動力を養うための、学部共通科目を配置する。

入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

人間環境大学環境科学部は、理系から文系までの幅広い教養を身につけ、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる人材を輩出する学部である。

人間環境大学は、人間環境学を理念とし、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的としている。環境科学部では、自然、社会、情報、およびそれらの関係についての高度な知識や技術を求め、創造的に学問を深めることができ、主体的に物事に取り組む人を求める。環境科学部にはフィールド生態学科および環境データサイエンス学科があり、各学科の入学者の受入れに関する方針は以下に示す。

・フィールド生態学科

人間環境大学環境科学部の学位授与の方針に基づいて、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる人を養成する。フィールド生態学科では、生物やそれを取り巻く非生物的要素により構成される自然環境と、その保全に配慮した社会に関心があり、フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人を求める。フィールド生態学科での教育を受けるにあたっては、生態系や環境問題を理解する力が必要となるため、生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人を、多様な選抜制度により受け入れる。

- ・生物やそれを取り巻く非生物的要素により構成される自然環境と、その保全に配慮した社会に関心がある人
- ・フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人
- ・生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人

- ・環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科では、自然科学分野、情報学分野だけでなく、社会科学分野なども含めた、文理両分野に関して、主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲があり、また、環境や国際社会問題に深い興味を持ち、ICT（Information and Communication Technology）活用によって積極的に社会貢献する人材を求める。環境データサイエンス学科での教育を受けるにあたっては、情報や社会活動を理解する力が必要なため、情報や数学もしくは社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れる。

- ・ 自然科学分野だけでなく、社会科学分野なども含めた、文理両方に関して、主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲がある人
- ・ 環境や国際社会問題に深い興味を持ち、ICT（Information and Communication Technology）活用によって積極的に社会貢献する人
- ・ 情報や数学もしくは社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた人

3.環境科学部の教育課程について

学部共通科目

学部共通科目の概要

学部共通科目は、大学で専門的な分野を学ぶ前、もしくは並行して学問の基礎となる力をつけるために設置された科目です。人間環境大学では、さまざまな分野の問題を総合的に把握するための基礎的学問として「人間環境学」を学びます。

環境を考えるうえで、持続可能な開発目標（SDGs）の理解は欠かせないものになっています。環境科学部では、SDGsの全体像やそれぞれの目標の内容を把握するために「SDGs概論」を学びます。

人々を取り巻く環境は、自然・社会・心理・文化の面から成り立っています。その仕組みを理解した上で専門的な問題に取り組むように考えられています。また、大学では学修した成果を表現することが必要となってきます。その方法はさまざまです。文献を検索したり、資料を集め、レポートを作成したり、パワーポイントを使用してその成果を発表する方法を学ぶための科目が「基礎ゼミナール」です。

今の社会は外国との関係をぬきにしては成り立ちません。あらゆる分野において国際的な視野をもって対応しなければなりません。そのために基盤となる語学科目として、本学では英語やドイツ語が設置されています。本学では、英語教育の目標を、「大学卒業後、仕事で英語が使えるための素地を修得すること」とし、「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」、「英語Ⅲ」、「英語Ⅳ」とステップアップしながら、インプットとアウトプットを総合的に運用できる能力を身につけます。これらの科目に加えて、「英会話Ⅰ」、「英会話Ⅱ」、「ビジネス英語」も学ぶことができます。

また、現在は情報社会であり、コンピュータを駆使した情報の取り扱いについて十分な知識が基礎的素養として求められます。専門分野での学修の基盤となるだけでなく、社会に出てからも役に立つ情報処理の基礎を学ぶのが「情報処理実習」科目です。

大学を卒業した後の進路を考え、自分の将来をデザインすることも必要です。そのために「キャリアデザイン」、「キャリア教養基礎」、「ビジネスコミュニケーション」、「キャリア形成演習」が設置されています。また、学芸員の資格を取得し進路に活かすための学芸員関連科目を9科目設置されています。

学部共通科目の特色

「基礎ゼミナール」は1年次の学修の基礎となる科目です。そのため「基礎ゼミナール」は少人数編成クラスとし、学修方法を実践的に学ぶことができます。また、「基礎ゼミナール」は、学修面だけでなく大学生活について総合的に学び、サポートする役割も担っています。「英語」、「情報処理実習」も少人数で、2年次以降の専門分野での学修に必要なスキルを実践的に学べる環境を作っています。

フィールド生態学科

フィールド生態学科の概要

持続可能な社会に向けたSDGs（持続可能な開発目標）が合意され、2030年までに到達すべき地球規模の共通目標が作られました。SDGsでは、これまで別々に考えられてきた経済・社会・環境という持続可能な開発の3つの側面が統合されたことで、これまで企業にとって経済的なコストとされることが多かった環境面への配慮が、企業活動に積極的に取りこまれるようになってきました。このような社会の動きの中で、自然環境の法則や、自然環境と人間活動の相互作用を専門的に学んだ人材は、環境や農林業を担当する公務員や環境コンサルタントなどの専門職に求められるだけでなく、いまやすべての企業に必要な人材となりました。

また、持続可能な社会を目指すうえで、人間活動によって失われた生態系の再生・回復、既存の生態系の維持および、生物多様性の保全による自然との共生を目指した取り組みが求められています。これらの取り組みを実のあるものにするためには、動植物や非生物的環境からなる生態系の仕組みを理解し、地域の生態系が抱える課題や現状を調査・把握し、それらの課題を解決する方法を提案し実行していくことが重要です。

フィールド生態学科では、動物・植物・生態系機能に関する専門的知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育てることを教育目標にしています。この目標を達成するために、フィールド生態学科では、学部共通の基礎知識だけでなく、陸生動物生態領域、水生動物生態領域、植物生態領域、生態系機能評価領域の4領域に分かれそれぞれの専門知識も体系的に学びます。

野生動物の生態、行動、分類についての理解を通して、野生動物の保全や管理といった人間社会との関係性について学ぶ領域として、陸生動物生態領域と水生動物生態領域を配置しています。どちらの領域も、共通して動物の生態、行動、分類についての知識を学びますが、陸生動物生態領域では陸上に棲む哺乳類、鳥類、昆虫類等を対象とした保全の進め方や野生動物管理の進め方、調査技術について学び、水生動物生態領域では水に棲む哺乳類や魚類等を対象とした保全や資源管理の進め方、調査技術について学びます。植物生態領域では、人間や動物などの生存基盤となる植物全般を対象とし、植物の分類や生態の理解を通じて、森林、緑地、農地の維持・管理について、その理論や実際を学びます。生態系機能評価領域では、化学的な方法を用いて、人間や動植物とそれらを取り巻く水や土といった非生物環境を対象に、浄化作用などの生態系の機能や、重金属や農薬、栄養塩等による環境汚染について学びます。

フィールド生態学科の卒業生は、動植物や生態系に関する広い視野と、専攻した領域で学んだ専門知識を持つ人材として、環境や農林業に関わる専門職だけでなく、一般企業の中においても、自然と共生する持続可能な社会に向けて活躍する職業人になることが期待されます。また、フィールド生態学科で学んだ専門知識を、環境学関連の大学院に進学してさらに深めることで、環境関連の研究者や公務員の技術職のような専門職に就くことも可能です。

フィールド生態学科の特色

フィールド生態学科の科目には、本学科の中核となる科目を配置するフィールド生態科目、情報や社会について学ぶ環境データサイエンス科目、基礎学力をつけるための学部共通科目の3つの科目群があります。このうち、フィールド生態科目には、フィールド生態学科の学びの中心となるフィールド生態共通科目と、個々の専門領域に特化した科目群である動物生態共通科目、陸生動物生態科目、水生動物生態科目、植物生態科目、生態系機能評価科目が配置されています。

フィールド生態科目は1年次から4年次に修得します。この科目のうち、学科共通の基礎となる科目は1年次から2年次に修得し、領域ごとの基礎的な知識や技術を扱う科目は2年次に修得します。1年次から2年次の基礎知識をもとに、3年次に領域ごとの専門知識や専門技術を修得し、社会問題に取り組むノウハウを身に着けます。また、卒業論文の作成に向けた演習科目を2年次から4年次に修得します。

フィールド生態共通科目については、フィールド生態学科の学びの根幹をなす必修科目と、フィールドや生物全般の理解を促す専門知識や専門技術を学ぶ選択科目があります。必修科目としては、1年次に、フィールド生態学科の学びの基礎となる「生態系の機能と社会」、「基礎生物学」、「自然地理学」、「フィールド生態学入門」、「環境と生物の進化」、「基礎生態学」、「基礎数学」といった講義科目や、フィールド生態学科で実習を行うための土台となる「フィールド生態学基礎実習」や「コミュニケーションスキルズ」といった科目が配置されています。2年次から4年次には、「卒業論文」の作成のための知識と技術を修得するための演習科目として、「学術論文講読Ⅰ」、「学術論文講読Ⅱ」、「フィールド生態学演習Ⅰ」、「フィールド生態学演習Ⅱ」、「フィールド生態学演習Ⅲ」、「フィールド生態学演習Ⅳ」の6科目が配置されています。また、「卒業論文」をまとめるために必要な、データ分析技術を学ぶ実習科目として、「統計プログラミング実習」、「統計処理法」、「地理情報処理法」の3科目があります。これらの科目は、多様な生物が存在することの意味を問う「生物多様性」とともに必修科目として配置されています。

フィールド生態共通科目の選択科目には、フィールドや生物全般の理解を促す専門知識を学ぶ科目や、フィールドや社会の中で専門技術を学ぶ実習科目が配置されています。専門知識を学ぶ科目としては、「海と川の生物学」、「環境昆虫学」、「生態系における物質循環」、「海洋生態学」、「景観生態学」、「ピオトープ論」、「森林生態学」、「河川生態学」、「環境気象学」、「生物資源学」、「環境アセスメント論」、「動物飼養管理

学」があり、実践的な実習科目として、「森林管理実習」、「奥山・里山管理実習」、「海洋ダイビング実習」、「農業基礎実習Ⅰ」、「潮間帯リサーチ入門」、「インタープリテーション実習」、「インターンシップⅠ」、「水族館展示実習」、「農業基礎実習Ⅱ」、「動物園・水族館実習」、「インターンシップⅡ」が配置されています。

動物生態共通科目には、陸生動物生態領域と水生動物生態領域の2領域に共通する、動物の基礎的な知識や技術を学ぶ科目が配置されています。「動物分類学」、「動物行動学」、「動物生態基礎実習」の3科目があり、いずれも2年次に配置されています。これらの3科目は、陸生動物生態領域と水生動物生態領域を専攻した学生の必修科目です。

陸生動物生態科目には、主に陸上に棲む動物の生態や、それらの動物の保全・管理についての専門知識や技術を学ぶ科目が配置されています。「野生動物管理学」、「陸生動物保全学」、「陸生動物生態実習」の3科目があり、いずれも3年次に配置されています。これらの3科目は、陸生動物生態領域を専攻した学生の必修科目です。

水生動物生態科目には、主に水中に棲む動物の生態や、それらの動物の保全・管理についての専門知識や技術を学ぶ科目が配置されています。「水生動物保全学」、「海洋資源管理学」、「水生動物生態実習」の3科目があり、いずれも3年次に配置されています。これらの3科目は、水生動物生態領域を専攻した学生の必修科目です。

植物生態科目には、植物の生態や分類、森林・緑地・農地などの維持管理についての専門知識や技術を学ぶ科目が配置されています。2年次から3年次にかけて、「植物分類学」、「植物生態基礎実習」、「緑化・栽培概論」、「緑地・森林管理学」、「環境適応型農業」、「植物生態実習」の6科目があります。これらの6科目は、植物生態領域を専攻した学生の必修科目です。

生態系機能評価科目には、水や土といった非生物環境における生態系の機能や、重金属や農薬などによる環境汚染などについての専門知識や技術を学ぶ科目が配置されています。2年次から3年次にかけて、「環境化学の基礎」、「基礎化学実験」、「環境化学実験」、「流域環境学」、「生態系機能評価学」、「生態系機能評価実験」の6科目があります。これらの6科目は、生態系機能評価領域を専攻した学生の必修科目です。

これらのフィールド生態科目のほかに、環境データサイエンス科目と学部共通科目があります。環境データサイエンス科目は、1年次から3年次に配置されており、選択科目です。また、持続可能な社会実現のための技術や事例を学ぶ「SDGs概論」や、「人間環境学」など大学での学びの基盤となる学部共通科目は、1年次に修得します。

環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科の概要

持続可能な社会実現に向け、一般企業や公共団体においてもSDGs（持続可能な開発目標）やCSR（企業の社会的責任）として、環境問題や社会的課題に積極的に取り組んでいる一方、社会活動や自然活動の中に潜む環境問題を、正しく理解した上で行動している人材が不足しています。そのため、地球環境問題を鳥瞰的な視野で理解した上で、解決すべき課題を発見し、経済面、社会面を考慮した具体的な解決策を提案し、行動できる環境リーダーの養成が望まれています。一方で、情報通信技術の進展により、実社会から得られる膨大なデータの利活用が可能となり、データを収集・蓄積し、分析した結果から新しい価値を創造できるデータサイエンティストが社会で重要視されており、高度ICT人材の育成においても積極的に進めることが必要です。

このような背景から、環境データサイエンス学科では、社会や情報、環境全般に関する基礎知識を備え、データサイエンスに関する専門知識も持った上で、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育てることを教育目標にしています。この目標を達成するために、環境データサイエンス学科では、環境情報と社会環境の2つの領域のそれぞれを体系的に学びます。

環境情報領域では、実証的に取得したデータから地域の社会的・経済的課題を読み解き、解決策を提案するためのデータ分析手法やコンピュータ、プログラミングなどの情報学、統計学に関する専門知識と技術を体系的に学びます。

社会環境領域では、地球環境問題と社会活動との関わりを考慮し、経済や経営、国際的な側面から環境問題や社会課題について体系的に学びます。特に、社会科学におけるフィールド調査とその分析に関する専門技術、持続可

能な社会実現に貢献するための幅広い知識を学びます。

領域で学んだ環境データサイエンス学科の卒業生は、データサイエンスに関する専門知識と、環境全般に関する基礎知識を有した人材になることが期待されます。また、環境データサイエンス学科で学んだ専門知識を、情報学・環境学・社会科学関連の大学院に進学してさらに深めることで、情報・環境関連の研究者や技術職の公務員などの専門職に就くことも可能です。

環境データサイエンス学科の特色

環境データサイエンス学科の科目編成は、環境問題や社会的課題への取り組みの必要性や、昨今における課題などを客観的かつ多面的に理解する知識基盤を形成する目的において、本学科の核となる科目を配置する環境データサイエンス科目として、環境データサイエンス共通科目、環境情報科目〔環境情報基本科目、環境情報展開科目〕、社会環境科目〔社会環境基本科目、社会環境展開科目〕があり、その他にフィールド生態科目、学部共通科目が配置されています。

環境データサイエンス科目は1年次から4年次に修得します。この科目のうち、2領域のそれぞれの基礎となる科目は1年次に修得し、専門知識を修得する科目は2年次と3年次に配置されています。また、卒業論文のための演習科目を2年次から4年次に修得します。

環境データサイエンス共通科目については、1年次には、環境や社会における情報の取り扱いや、環境と情報、社会との関連性を理解する上で重要となる「環境情報リテラシー」と「環境情報と社会」、身近な地域における環境・社会問題を取り扱う上で必要となる社会フィールド調査の概要を学ぶ「三河に学ぶ」、「社会環境調査概論」、「環境リサーチ&プランニング」といった必修科目が配置されており、2年次と3年次には、データ利活用に関する総合的な学びの基本として「データサイエンス概論」と「社会環境調査法Ⅰ」、「社会環境調査法Ⅱ」、「農業・情報キャリア論」、「環境センシング実習」が必修科目として配置されています。また、4年次に配置されている必修科目である「卒業論文」の作成のための知識と技術を修得するための演習科目として、「学術文献講読Ⅰ」、「学術文献講読Ⅱ」、「環境データサイエンス演習Ⅰ」、「環境データサイエンス演習Ⅱ」、「環境データサイエンス演習Ⅲ」、「環境データサイエンス演習Ⅳ」、「環境データサイエンスプロジェクト」の7科目が2年次から4年次に配置されており、本学科の必修科目です。さらに、フィールドや学外での実習を目的とする実習科目として、「海外エコ・フィールド社会実習」や「地域エコ・フィールド社会実習」、「地方創生実習」、「スマートアグリ概論」、「インターンシップ」の5科目が2年次から3年次に配置されており、これらは選択科目です。

環境情報科目については、データサイエンスと自然・環境調査に関する専門的な知識を身に付けるために、環境情報基本科目である「環境リスク概論」、「基礎数学」、「環境統計解析学基礎」、「環境プログラミング基礎」、「環境データ循環学」、「環境調査分析」、「地理空間情報学」、「環境ビッグデータ解析」、「人工知能と機械学習」の講義・演習9科目が1年次から3年次に配置されており、これらの領域を専攻した学生の必修科目です。また、環境情報展開科目として、「Rプログラミング入門」や「情報メディア概論」、「環境統計解析学応用」、「環境プログラミング応用」、「物質循環解析」、「環境情報ビジネス実習」、「環境ビジュアライゼーション」、「都市・自然環境IoT」、「環境データベース入門」が1年次から3年次に配置されており、これらは選択科目です。

社会環境科目については、都市や農村など野外におけるフィールド調査・研究の技術の修得や、地域社会における様々な課題、グローバル的課題をはじめ、社会経済・経営における環境の重要性などの理解を目的として、「サステナブルマネジメント」、「現代社会と経済」、「環境経済学入門」、「エコツーリズム入門」、「環境政策」、「環境と開発」、「グローバル化と地域社会」や「食料安全保障と栄養」、「環境社会学」、「環境エネルギー論」の講義10科目が1年次から3年次に配置されており、この領域を専攻した学生の必修科目です。また、社会環境展開科目として、「環境倫理」、「企業会計」、「新時代の国際貿易と環境リスク」、「国際協力論」、「経営データ・ESG投資分析」、「環境法制」、「環境と多文化共生」、「環境経済学史」、「環境経営」、「地球環境変動論」、「地域経済」の講義科目が1年次から3年次に配置されており、これらは選択科目です。

フィールド生態科目は、1年次から3年次に配置されており、選択科目です。また、持続可能な社会実現のための技術や事例を学ぶ「SDGs概論」や、「人間環境学」など大学での学びの基盤となる学部共通科目は、1年次に修得します。

4. 環境科学部の教育システム

教育課程

人間環境大学の教育理念に基づき本学の教育課程は、以下のような基本的構造をもって組み立てられています。

学部共通科目

フィールド生態科目

環境データサイエンス科目

卒業論文

学部共通科目

環境科学部では、各学科に属する授業科目群の他に、各学科に共通する「学部共通科目」を置いています。学部共通科目は、大学で専門的な分野を学ぶ前、もしくは並行して学問の基礎となる力をつけるための科目です。

学部共通科目は、以下の科目が必修となります。

人間環境学（2単位）

基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ（各2単位）

情報処理実習Ⅰ、Ⅱ（各1単位）

英語Ⅰ、Ⅱ（各2単位）

キャリアデザイン（2単位）

SDGs概論（2単位）

基礎ゼミナール

基礎ゼミナールの担当教員は、教学面だけではなく学生生活全般の相談にもものります。本ゼミナールを通して有意義な学生生活をスタートさせてください。

卒業に必要な履修単位

フィールド生態学科

本学を卒業するためには、以下に示す必要単位を含め126単位以上を修得する必要があります。

フィールド生態学科

学部共通科目 (16単位以上)	人間環境学	(2単位)
	基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	(各2単位)
	情報処理実習Ⅰ・Ⅱ	(各1単位)
	英語Ⅰ・Ⅱ	(各2単位)
	キャリアデザイン	(2単位)
	SDGs概論	(2単位)
フィールド生態科目 (65単位以上)		
フィールド生態共通科目 必修科目含め (41単位以上)		
領域別必修科目 (いずれかの領域を選択) (14単位以上)		
陸生動物 生態領域	動物生態共通科目	(6単位以上)
	陸生動物生態科目	(8単位以上)
水生動物 生態領域	動物生態共通科目	(6単位以上)
	水生動物生態科目	(8単位以上)
植物 生態領域	植物生態科目	(14単位以上)
生態系機能 評価領域	生態系機能評価科目	(14単位以上)
環境データサイエンス科目		(8単位以上)
卒業論文		(6単位)

環境データサイエンス学科

本学を卒業するためには、以下に示す必要単位を含め126単位以上を修得する必要があります。

環境データサイエンス学科

学部共通科目 (16単位以上)

人間環境学	(2単位)
基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ	(各2単位)
情報処理実習Ⅰ・Ⅱ	(各1単位)
英語Ⅰ・Ⅱ	(各2単位)
キャリアデザイン	(2単位)
SDGs概論	(2単位)

環境データサイエンス科目 (72単位以上)

環境データサイエンス共通科目 必修科目含め (30単位以上)

環境情報科目、社会環境科目 (いずれかの領域を選択) (42単位以上)

・環境情報領域

環境情報基本科目	(22単位以上)
環境情報展開科目	(8単位以上)
社会環境科目	(12単位以上)

・社会環境領域

社会環境基本科目	(22単位以上)
社会環境展開科目	(8単位以上)
環境情報科目	(12単位以上)

フィールド生態科目 (8単位以上)

卒業論文 (6単位)

学位について

4年以上（8年を最長とする〔2年次編入生は3年以上、7年を最長とする。3次年編入生は2年以上、6年を最長とする。〕）在学し、所定の単位を修得した者に対して学位記を授与し、「学士（環境科学）」の学位を授与します。

5.学年度と授業について

学年度とは

学年度は前期と後期の2期に分かれています。前期は4月1日に始まって9月15日に終わり、後期は9月16日に始まって3月31日に終わります。

なお、当該年度の年間行事予定表および学年暦は毎年作成され、『履修の手引き』に掲載しています。

授業時間割について

卒業所要単位の修得に必要な授業科目のうち、当該年度に開講される科目を網羅した授業時間割が、毎学年度はじめに編成され告知されます。

授業は前期・後期を通じて月曜日から金曜日まで以下の授業時間帯で行われます。授業時間割の中から、各自の年次、クラス、学科に応じて、授業科目を履修することになります。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
9:10～10:40	10:50～12:20	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

授業期間の種類について

- (1) 「通年授業」…1年間通じて開講される授業
- (2) 「半期授業」…前期または後期に開講される授業
- (3) 「隔週授業」…1週おきに開講される授業
- (4) 「集中授業」…夏季休業期間（8月～9月）や冬季休業期間（12月）またはそれ以外の期間を利用してまとめて開講される授業

集中講義の留意事項

- ・日程の重複している授業は同時に履修することはできません。
- ・集中講義は原則として1時限～4時限まで連続して授業を行います。
- ・P41以降のカリキュラム表の曜日・時限欄に「集中」と記載されている授業科目については、履修登録の際に同表備考欄の開講日を必ず確認してください。

授業に関する留意事項

1. いずれの授業も授業回数の5分の4以上の出席が必要です。欠席回数が5分の1を越える者は定期試験受験資格を失うことになります。
*履修や出席状況等、必要に応じて保護者の方へ連絡することがあります
2. 「公欠」（忌引も含む）により、やむを得ず授業を欠席する場合は、原則として欠席の理由及び期間が記載された書類及び「欠席届（公欠願）」又は「忌引願」を教務課まで提出してください。「公欠」以外での欠席は理由のいかんにかかわらず欠席となります。この場合特に授業の欠席を教務課に届ける必要はありません。
3. 「暴風警報発令時」や「交通機関のストライキ」等の場合の授業の取り扱いについてはP62～P64の「人間環境大学 授業に関する規程」及びその別表1）および別表2）を参照してください。
4. 上記規程に記載の市町村以外の居住地に暴風警報が発令中の場合は、警報解除後なるべく早く出校してください。
5. 公共交通機関の障害で受講できなかった場合は、原則として延着証明を持参してください。
*公共交通機関の不通・遅延時の対応については、大学に届け出ている通学区間が対象です。
公欠申請時には、電車・バスの降車時に配布される延着証明書（遅延証明書等名称が異なる場合があります）が必要となりますので、必ず降車駅またはバスの運転手から受け取るようにしてください。
なお、延着証明書には日付と遅延時間の記載が必要です。鉄道会社や駅等により様式は異なりますの

で、記載されていない場合は係員の方に記載をお願いしてください。また、公共交通機関各社のHP上でも延着証明書が確認できますが、こちらは学生がその公共交通機関に乘車していた証拠にはなりませんので、本学では受理できません。

公欠

次に該当する事由により授業を欠席し、必要書類を提出した場合はこれを公欠として取り扱います。詳しくはP68～P70「人間環境大学 授業に関する規程」を参照してください。

- ①「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」にもとづき裁判員の任務を果たす場合（学部長の承認が必要）
- ②「学校保健安全法施行規則」第18条に定められた感染症による社会的影響を考慮して、大学が出校停止を命じた場合（学部長の承認が必要）
- ③天災・事故等による公共交通機関の運休又は遅延（第3条の暴風警報の解除、第4条の警戒宣言等の解除、第5条のストライキの終了後も続く公共交通機関の運休又は遅延、及び第3条の暴風警報の解除後も居住地域で暴風警報が解除されないことによる公共交通機関の運休又は遅延を含む）によって授業を欠席した場合。
- ④忌引きの場合（学部長の承認が必要）
- ⑤その他、特に本学が必要と認めた公の行事に参加する場合（教授会での承認が必要）

《備考》

- ・集中講義については、単位認定に必要な授業時間数の関係で公欠扱いとならない場合があるので注意すること。
- ・公欠は、授業担当教員による補講への参加や、与えられた課題等を提出し受理される等により、公欠を許可された期間を出席扱いとすることができる。課題の場合には公欠申請を受理した日から起算して2週間以内に提出すること。
- ・公欠扱いを受けようとする者は、上記①③⑤の場合は事前に所定の「欠席届（公欠願）」及び期間が明記された「受入先からの正式書類」もしくは公共交通機関の「遅延証明書（遅延時間の記載のあるもの）」（※但し、近畿日本鉄道のみ「Web遅延証明書・ICカード利用履歴もしくは定期」）、②の場合は所定の「欠席届（公欠願）」及び期間が明記された医師が作成した所定の「治癒証明書」又は「診断書」等、④の場合は所定の「忌引願」を教務課に提出すること。公欠届は事由発生日から起算して2週間以内に提出すること。

忌引（忌引願は授業の有無に関係なく提出してください）

親族に不幸があったときは、次の基準を限度として忌引きを認めます。基準日数は葬儀の日を含み連続する期間とします。忌引きは公欠に準じて扱います。

1. 配偶者：	夫・妻	10日以内
2. 血族：	1 親等（両親・子）	7日以内
	2 親等（祖父母・兄弟等）	3日以内
	3 親等（曾祖父母・叔父叔母等）	1日以内
3. 姻族：	1 親等	3日以内
	2 親等および3 親等	1日以内

《備考》

- ・忌引扱いを受けようとする者は、所定の「忌引願」及び葬儀日が明記された書類を教務課に提出してください。

休講・補講について

休講

担当の先生が学会出張や病気などやむを得ない理由で授業を休講にすることがあります。このような場合には、担当教員から連絡があり次第、ポータルサイト掲示板により連絡しますので注意してください。なお、休講となった授業については、これを補うための補講を行います。

* 休講の掲示がなく、授業開始時刻を30分経過しても教員が出講しないときは、必ず教務課に連絡して指示を受けてください。

補講

休講などで、授業回数が不足するときなどは、補講を実施します。日程はあらかじめ掲示発表されるので、履修生は通常の授業と同様に受講してください。

* 補講は、12月24・25日の補講日または授業開講曜日の5時限終了後（18：10- 19：40）や水曜日の4・5時限目、土曜日の1・2時限目を利用して実施されます。また、教員が履修生と相談の上これ以外の曜日・時間帯になる場合もあります。

* 休講及び補講の連絡は、ポータルサイト掲示板にて行われますので、最低1日1回は確認してください。

6.単位制について

単位制

大学における教育課程は、「単位制」を採用しています。

大学設置基準では、「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする。」と定められています。この45時間には、授業での学習時間と授業外の自習時間の両方が含まれており、本学の教育課程では次のように定められています。

◆1単位の学習時間

授業の形態	授業での学習時間	授業外の自習時間	合計
講義・演習	15～30 時間	15～30 時間	45 時間
演習及び実験、演習及び実習	15～30 時間	15～30 時間	
実験・実習・実技	30～45 時間	0～15 時間	

本学では、1学年を前期と後期に分け、各学期の授業期間を15週間と定めています。また、90分の授業を1コマ＝2時間と計算しています。従って、それぞれの授業形態について受講生の1単位あたりの1週間の学習時間は次のようになります。

◆1単位あたりの1週間の学習時間（1学期15週で完結する場合）

授業の形態	授業での学習時間	授業外の自習時間	合計
講義・演習	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	3 時間 (1.5コマ)
実習及び実験、演習及び実習	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	1～2 時間 (0.5～1 コマ)	
実験・実習・実技	2～3 時間 (1～1.5 コマ)	0～1 時間 (0～0.5 コマ)	

(学習時間の計算例)

たとえば、前期に20単位（講義16単位、実験・実習・実技4単位）を履修登録した場合、前期中に学修すべき時間は、

講 義	授業での学習時 240 時間 (16 単位×15 時間)	+	授業外の自習時 480 時間 (16 単位×30 時間)	=	720 時間
実験・実習・実技	120 時間 (4 単位×30 時間)	+	60 時間 (4 単位×15 時間)	=	180 時間
	↓		↓		
	<u>360 時間</u>		<u>540 時間</u>		

となります。

この場合、授業外の自習時間として540時間の学習が必要となりますので、前期が日曜・祝祭日も含めて18週間にわたり、126日（7日×18週）あると考えると、1日あたりに授業外で学修すべき平均時間は、

$$540 \text{ 時間} \div 126 \text{ 日} \div \underline{4.3 \text{ 時間}}$$

となります。

CAP制について

本学では、上記の単位制による1単位を修得するための学習時間をふまえ、1年間に履修登録できる上限単位※を「46単位」と定めています。これは、ほとんどの大学で設けられており、「CAP制」と呼ばれています。

むやみに科目数だけ多く登録しても勉強が追いつかずに単位が取得できないようなことが起こらないように、そして個々の科目の消化不良を防ぐためです。計画的な学習活動を行うために、本学の教育課程、卒業所要単位を『履修の手引き』の「3.環境科学部の教育課程について」と「4.環境科学部の教育システム」（P9～P16）でよく理解してください。

また、個々の授業科目の単位数は『履修の手引き』の「第Ⅱ部 カリキュラム」（2024年度（令和6年度）版であればP44～P54）で確認してください。

※前年度GPAが3.50以上の場合、50単位まで履修登録が可能です。

前年度GPAが0.70未満の場合、45単位までの履修登録しかできません。

7. 学修計画と履修登録について

学修計画

高校の学修では基本的に全員が同じ時間割をこなすのに対し、大学の学修は自らの興味・関心や将来の進路の希望を踏まえて4年間の学修の目標を定め、カリキュラム（大学が学生のために用意した教育メニューのこと）のなかから、自分に適した時間割を作らなければなりません。

学修計画を立てるときの主な材料およびサポート

- ・『履修の手引き』（本誌）
開講授業科目一覧・・・在学中の全授業科目のうち当該年度開講科目を参照できる
- ・『コマシラバス』・・・各授業科目の内容が参照できる
- ・『授業時間割表』・・・当年度の開講授業科目とその時間割を参照できる
- ・サポート・・・年度当初のオリエンテーション時の履修ガイダンス、メンター教員等による指導・相談等

履修登録とは

履修登録とは、前期の始めに、各自が各学期に履修しようとする授業科目を選択し、登録する手続きのことです。コマシラバス、履修の手引き等を参考に、授業の履修計画を立てた上で、ポータルサイトで履修登録することにより登録を行います。なお、履修登録期間の最終日は17時00分が登録期限です。登録期間内に不都合が起きた場合には、その時点で教務課に申し出て下さい。また、登録後のポータルサイト上の時間割をプリントアウトし、必ず所持しておいて下さい。

下記の各事項に留意しながら、所定の期間内に履修登録を終了しなければなりません。

1. 所定の履修登録期間内に履修登録を完了しない者は、その学期の授業科目の履修および定期試験の受験は許可されません。
2. 所定の履修登録期間後の履修登録科目の変更・追加等は、原則として認められません。
3. 履修登録の修正が可能な期間を除き、履修登録した授業科目以外の科目を受講することはできません。
4. 授業科目によってはクラスを指定する場合があります。指定されたクラスのある場合はその指定に従って履修登録をしなければなりません。
5. 履修希望者が定員を超える場合、授業担当教員の判断により抽選などの方法により選出を行う場合があります。
6. 履修登録の確認、卒業要件の確認は、学生各自の責任のもとで行い、わからないことはメンター教員に相談して下さい。



履修登録の流れ

前期

履修登録の検討

○『履修の手引き』、『コマシラバス』、『授業時間割』を熟読し、メンター教員等と相談をしながら履修科目を検討する

履修登録期間

4月4日(木)～17日(水)17:00

○ポータルサイトにログインし、期間内に履修登録を完了させる

○前期科目、後期科目および通年科目を登録

○履修登録期間以降は、履修登録を行った授業のみに出席



履修登録修正期間

4月24日(水)～26日(金)17:00

○追加登録が認められない科目を除いて、この修正期間に履修登録の修正（追加・修正）が可能

※履修登録修正期間が終了すると、履修登録の内容が確定します



後期

履修登録修正期間

9月19日(木)～26日(木)17:00

○追加登録が認められない科目を除いて、この期間に履修登録の修正（追加・削除）が可能

○履修登録修正期間以降は、履修登録を行った授業のみに出席

○前期・後期を通じて履修登録単位数は原則として46単位を超えることはできない（P21「CAP制について」を参照）

履修登録のルール

- 1年間に履修科目として登録できる単位数は、原則として46単位を超えることができません（P21「CAP制について」を参照）。
- 授業科目の配当年次について、各自が属する学年より下位の授業を履修することはさしつかえありませんが、各自が属する学年より上位の配当年次の授業を履修することはできません。
(例)
 - ・配当年次が1・2年次の授業を3年次生が履修する場合 → 可
 - ・配当年次が3・4年次の授業を2年次生が履修する場合 → 不可
- 基礎ゼミナールⅠ、Ⅱ、英語Ⅰ、Ⅱなどクラスが指定されている場合は、指定クラス以外の授業を履修登録することはできません。
- 履修者を選定するにあたり抽選等の必要な科目にもかかわらず抽選等に参加しなかった場合は、その科目について当該年度の履修登録ができません。履修登録時には、抽選等の結果通りに正しく登録してください。
- 授業科目によっては、「Aを履修するためにはBを履修すること」「Ⅰを履修した後Ⅱを履修すること」といった履修条件を課している場合があるので、オリエンテーションやガイダンス等でよく確認しておいてください。
- 同一名称・同一科目コードの科目は、担当者等が異なっても重複して履修することはできません。同一名称の授業で複数ある場合は、自分が履修すべきクラス、その授業コード、担当教員、曜日時限などを確認して履修登録を行ってください。
(例)「人間環境学」の場合
COM100 (科目コード) +01 (クラスコード) = COM10001 (授業コード)
- 過年度に単位を修得した同一名称の科目は、担当者等が異なっても再度履修登録することはできません。
- 同一年度の同一曜日・時限に2科目以上を履修登録した場合は、履修登録修正により二重登録状態を解消しなければ両科目の履修登録とも無効になります。
- 履修登録許可の通知は行ないません。不許可の科目のみ掲示等により連絡します。
 - ・履修登録のルールに違反している場合には、履修登録不許可となります。
 - ・開講予定科目がやむを得ない理由で、不開講となる場合には、履修登録不許可となります。
- 履修希望者が少数の場合は不開講となる場合があります。
- 特定の科目に履修希望者が集中した場合、卒業年次生・上級年次生の優先、教室配当の調整、担当教員の手配などの措置の結果、次のことが生じる場合があります。予めご了承ください。
 - ① 担当教員の変更
 - ② 曜日・時限の変更
 - ③ 希望科目の履修登録ができない
- 別に実験・実習・教材費等の必要な科目で所定の期日までに納入がない場合は、その科目の履修登録は無効となり、履修登録は削除されます。
- 3、4年次に開講される演習科目を履修するためには、前年度までに40単位以上を修得しておく必要があります。
- 3、4年次に開講される演習科目は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順番で修得することとし、同時に、または飛び越えて履修することはできません。
- 履修登録時のポータルサイト上での操作ミスや、履修登録の期限に遅れたことなどから生じる不利益は学生本人の責任となります。

履修登録内容の確認

ポータルサイトの「履修登録」メニューから確認のうえ、「印刷する」ボタンより必ず履修登録内容をプリントアウトし保管してください。履修登録時にエラーメッセージが表示された場合は正しく履修登録されませんので、内容を確認してください。

また、エラーが出ていなくても、選択間違い等により意図しない授業科目が履修登録されている場合があるため、履修登録内容をしっかりと確認してください。

ポータルサイト
人間環境大学

TOP 掲示板 履修登録 ログアウト

掲示板

- 個人へのお知らせ
- 連絡事項
- 授業関連

履修情報

- 履修登録
- 出席状況
- レポート提出
- 成績確認

● 履修登録

● 要件を確認する

後期

印刷する

	月	火	水	木	金	土
1限				HC10001 言語表現論 岡 稔和 221大講義室		
2限	HE02102 基礎ゼミナールⅡ 藤高 恵 515講義室	PS10201 心理学統計法 吉武 久美 221大講義室			PS50001 臨床心理学概論 田中 史子 221大講義室	
3限		HC10601 日本の言語芸術と文化Ⅱ 花井 しおり 221大講義室	ES70301 経営学概論 藤谷 あや子 221大講義室		HE07105 英語Ⅱ 三浦 幸 512教室	
4限	PS30101 発達心理学 丸山 宏樹 411大教室	HC10201 日本美術文化論Ⅱ 菅原 太 221大講義室		ES70201 企業会計Ⅱ 織岡 明 221大講義室	HE05105 情報実習Ⅱ 藤原 真澄 526PC教室	
				HE07901 中国語Ⅱ 渡 昌弘 512教室		
6限						
7限						

▼時間割外の授業
授業の申請はありません。

履修登録内容が確認できます

履修登録内容や修得単位数が確認できます

《エラーメッセージ例》

1. 履修登録上限単位をこえています。
2. 既に登録されている科目です。
3. 曜日・時限が重複しています
4. 所属が異なるため登録できません。
5. 履修登録に必要な科目の単位が修得されていません。
6. 取消のみ許可されている科目です。

《エラーの出ない履修登録ミスの例》

- ・意図しない科目を選択し、別の科目が履修登録された。
- ・抽選科目、クラス指定科目を許可された者以外が履修登録した。
- ・期間が重複している集中講義科目が履修登録された。

【単位修得状況】欄の見方

<履修登録印刷ページ>

【後期】

	月	火	水	木	金	土
1限				HC10001 英語表現論 岡 良和 221大講義室		
2限	HE02102 基礎ゼミナールⅡ 藤原 忠 515講義室	PS10201 心理学統計法 吉武 久美 221大講義室			PS50001 臨床心理学概論 田中 史子 221大講義室	
3限		HC10601 日本の言語芸術と文化Ⅱ 花井 しおり 221大講義室	ES70301 経営学概論 新谷 あや子 221大講義室		HE07105 英語Ⅱ 三浦 孝 512教室	
4限	PS30101 発達心理学 丸山 宏樹 411大教室	HC10201 日本美術文化論Ⅱ 豊原 太 221大講義室		ES70201 企業会計Ⅱ 磯貝 明 221大講義室	HE05105 情報実習Ⅱ 神原 真澄 526PC教室	
5限				HE07901 中国語Ⅱ 岩 昌弘 512教室		
6限						
7限						

区分ごとの卒業までに必要な単位数

カリキュラムの科目区分

既に修得している単位数

卒業要件を満たすために必要な残り単位数

現在履修登録をしている単位数

分野区分	要件単位数	修得単位数	不足単位数	履修中
【基礎+専門合計】	126	46	80	
《学部共通科目》	14	18		
《精神環境科目》	22	12	10	
《自然・社会環境科目》	8	6	2	
《歴史・文化環境科目》	8	10		
《総合演習・卒業論文》	14		14	

履修登録の修正について

履修登録内容を修正（追加・削除）する場合は、履修登録同様に履修登録修正期間内にポータルサイト上で行ってください。

なお、原則として46単位制限を越えて追加登録はできません（P21「CAP制について」を参照）。

履修登録修正期間の最終日は17時00分（土曜日の場合12時30分）が登録期限です。なお、不都合が起きた場合には、その時点で教務課に申し出てください。また、履修登録修正後のポータルサイト上の時間割をプリントアウトし必ず所持しておいて下さい。

履修登録を修正する際のルール

1. ポータルサイト上でエラー表示がある場合、履修登録の修正が必要です。
2. クラス指定科目においては、指定されたクラス以外への変更はできません。
3. 履修登録修正期間後の履修登録の修正には一切応じられません。
4. 履修登録修正期間に修正を行わなかった授業については、ポータルサイト上に掲載されている通り履修登録が完了したことになります。
5. 実験・実習・教材費等の未納により履修登録が削除された科目の単位は、1年間に履修登録ができる上限単位（46単位）の一部として算入されます（合わせてP21「CAP制について」を参照）。

《修正時のチェック》

- 授業コードは正確ですか？
- 追加する場合、その曜日・時限に既に履修登録されている科目は削除しましたか？
- 定員が設けられている授業の場合、定員内であるか確認済みですか？
- （後期の場合）修正しているのは後期開講科目だけですか？

履修登録取消制度

履修登録取消制度は、履修登録完了後（履修登録修正期間後）に期間を定め、履修登録した科目を取り消す制度で、履修登録をして授業に出たものの

- ① 授業の内容が自分の勉強したいものと違っていた
- ② 授業に対する知識が不足していることに気づいた
- ③ 履修科目数を減らしたい

などといった理由から履修登録を取り消すことができる制度です。履修登録を取り消すためには、年間行事予定表で定められた期間内に教務課にある所定の用紙で取り消しの手続きを行ってください。

この期間内に履修登録取消の手続きを行った科目は、1年間の履修登録上限単位及びGPA（GPAについてはP31を参照）の算入対象とはなりません（履修登録の取り消しを行わないまま授業放棄をするとGPAの値が下がり、奨学金継続の可否などに影響します）。

《履修取り消しに関するスケジュール》

5月6日(月)～10日(金) 17:00 : 前期履修登録取り消し期間

10月4日(金)～10日(木) 17:00 : 後期履修登録取り消し期間

* 通年科目は前期履修取消期間中のみ取り消すことができます。

教科書について

履修登録する授業の教科書を、教務課で配布される「教科書販売リスト」を参考に前期は4月中、後期は9月中に指定された場所等で教科書を購入してください（販売期間終了後は返品をするため入手が困難になりますので早めに購入して下さい）。一部教務課で販売するものもあります。また、必要に応じて各自で書店やオンラインにて購入をしていただいても構いません。

8. 試験について

試験には、定期試験・追試験・再試験があります。また、試験に代わるものとしてレポートが課される場合もあります。

定期試験

定期試験は、前期、後期それぞれ年間行事予定表で定める定期試験期間に行なわれます。

平常授業と教室が異なることがありますので、定期試験期間の約1週間前にポータルサイトに掲示される試験時間割には、十分注意してください。

同一科目で複数クラスがある場合、履修登録したクラスの試験を受験しなければなりません。

受験資格

次のいずれかに該当する者は受験資格がありません。

1. 欠席時数が授業時間数の5分の1を超える者
*履修や出席状況等、必要に応じて保護者の方へ連絡することがあります
2. 授業料等納付金を納入していない者
3. 履修登録をしていない者
4. 履修途中で受講を辞退した者
5. 出席確認において不正行為を行った者

*試験受験後に上記事項に該当することが判明した場合、当該科目の成績は判定しません。



受験上の注意

学生証を持参していない場合は受験できません。その他受験上の注意事項は『学生便覧』の「試験」の項および「試験規程」をよく読んで必ず確認しておいてください。

*試験当日に学生証を忘れた者は試験前に教務課で仮学生証を発行してもらってください。

追試験

病気や忌引き、その他交通機関の不通など、下記に示すやむを得ない理由で定期試験を受験できなかった人が、指定された期日までに「追試験願」を提出し、許可された場合に実施される試験です。詳細は『学生便覧』の「試験規程」を確認してください。

1. 暴風、大雨その他災害により受験することができなかった場合
2. 交通機関の不通、又は延着による場合
3. 傷病により受験できない場合
4. 公欠（忌引も含む）、又はそれに準じる場合
5. 特別の事情がある場合で、教授会で承認された場合

*医師の診断書、交通機関の延着証明など、その日時に受験が困難であった理由が分かる証明書類が必要です。

*追試験による成績は90点（S評価）を最高とします。

*追試験には所定の受験料が必要となります。

再試験

卒業予定年次に履修し不合格（D判定）となった科目のうち8単位以内を修得すれば卒業資格が与えられる場合に限り、教授会の議を経て再試験を認める場合があります。詳細は『学生便覧』の「試験規程」を確認してください。

*再試験による成績は60点（C評価）を最高とします。

*再試験には所定の受験料が必要となります。

レポートの提出について

レポート試験の場合には原則、ポータルサイトのレポート提出システムで提出します。ただし、科目によりレポート提出方法が異なる場合がありますので、詳細は定期試験期間の約1週間前にポータルサイトに掲示される定期試験案内を確認してください。

《ポータルサイトでの提出の場合》

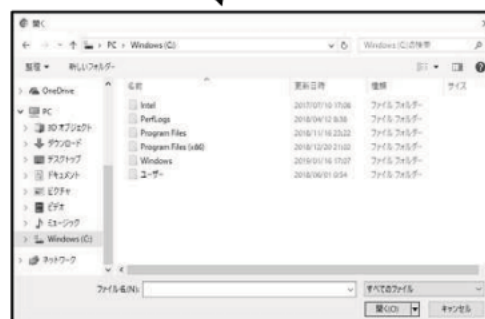
- ①メニューから「レポート」をクリックします。
- ②アップロードの「ファイルを選択」よりファイルをアップロードしてください。
*複数のファイルの場合は、1つのZipファイルにまとめてアップロードしてください。
- ③「提出」をクリックします。
- ④提出状況に「完了」、提出日に提出した日時が表示されたことを確認してください。
- ⑤一度アップロードしたファイルはダウンロードし、ファイルの中身をよく確認してください。

提出期限後の差し替えは一切認められません。

*大学から支給されたメールアドレス (@uhe.ac.jp) に提出完了メールが届きますので、成績が発表されるまでは、大切に保管してください。

授業年度	授業CD	授業名	実施期	提出期日	提出状況	アップロード	ダウンロード	提出	提出日
2018	ES10201	学術論文講読 I	前期	2018/7/31	②	ファイルを選択 000000000000X.pptx	↓	③	
2018	ES11401	動物園・水族館実習	前期	2018/7/28	完了	ファイルを選択 000000000000X.doc	↓	提出	2018/7/25
2018	ES70101	企業会計 I	前期	2018/7/25	完了	ファイルを選択 000000000000X.xlsx	↓	提出	2018/7/23

アップロードするファイル
選択画面が表示されます。



<よくあるトラブル>

- ・1科目にアップロードできるファイルは1つのみ
- ・すでにアップロードしているにも関わらず、再度アップロードする場合は、前回のデータ（ファイル）は削除されてしまいますので、ご注意ください。
- ・複数のデータ（ファイル）をアップロードする場合は、zipファイルにしてください。

9. 成績評価について

成績評価基準

成績の評価は、定期試験、レポートなどによって授業科目ごとに行われます。成績評価基準は次の通りで、成績の評価は評価点および評語で通知されます。

評価点	可否等	評語	GP	評価基準
100～90点	合格	S	4.0	学習目標をほぼ完全に達している (Excellent)
89～80点		A	3.0	学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点		B	2.0	学習目標を相応に達しているが不十分な点がある (Good)
69～60点		C	1.0	学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60点未満	不合格	D	0	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
試験欠席		E	0	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄		F	0	出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	認定	N	—	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

成績の発表

成績はポータルサイトにて通知します。前期の成績は9月中旬、後期の成績と通年科目の成績は3月下旬に通知します。

卒業年次生の成績は3月上旬の卒業予定者発表に合わせて通知します。

成績に関する問い合わせ

成績に関する質問は、科目担当教員へ直接問い合わせてください。また、自身の成績について疑問がある場合は、成績疑義申出期間内であれば、教務課にある「成績疑義申出書」にて申し出ることができます。それ以降の疑義は受け付けることができません。

成績疑義申出期間についてはポータルサイトにて成績発表時に告知します。

GPA(Grade Point Average)制度

GPA(Grade Point Average)制度は、成績評価に用いられた成績に対応したGrade Point(GP)を用い、履修した科目成績の平均値を出すものであり、アメリカの大学で一般的に行われている世界に通用する成績評価のシステムです。

このGPA制度によって、ただ卒業するのに必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的にかつ充実した学習効果をあげることを目的としてこの制度を導入しています。また、GPAは卒業までの様々な選考の判断基準となるので、各自のGPAを常に意識し、学習計画を立ててください。

GPAの算出方法

履修登録した科目ごとの5段階評価を、4から0までのGPに置き換えて単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割って算出します。

$$\text{GPA} = \frac{(4.0 \times \text{Sの単位数}) + (3.0 \times \text{Aの単位数}) + (2.0 \times \text{Bの単位数}) + (1.0 \times \text{Cの単位数})}{\text{履修登録単位数}}$$

(GPAの実際の計算例)

科目名	単位数 (a)	評価点	評語	GP (b)	a×b
〇〇〇〇学	2	92	S	4.0	8
〇〇〇〇論	2	85	A	3.0	6
〇〇〇学I	2	55	D	0	0
□学研究法I	2	70	B	2.0	4
□学研究法II	2	62	C	1.0	2
△△基礎実習	4	0	A	3.0	12
合計	14				32

上記成績の学生の場合、

履修登録した授業科目の単位数の合計=14

(履修登録した授業科目の単位数×当該授業科目のGP)の合計=32

$$\text{GPA} = \frac{32}{14} = 2.29$$

となります。

* 計算式の分母は、不合格科目を含め履修登録した全ての科目の合計単位数であることに注意してください。

GPAの算定対象とならない科目

- ・ 成績の評価点が認定となる科目 (単位互換履修科目等)
- ・ 定められた期間に履修登録取り消しの手続きをした科目
- ・ その他、卒業要件に算入されない科目

成績証明書への記載内容

成績証明書には、合格科目についての評語のみが記載されます。

GPAによる学生へのフォローアップ

1つの学期GPAが2.2未満となった学生は、本人を呼び出しメンターや演習担当教員による注意と指導を行います。

10. 各種単位互換履修生制度について

単位互換履修生制度とは

単位互換履修生制度とは、大学間の交流と協力を促進し、それぞれの大学の教育内容の充実を図ることを目的として、単位互換協定を締結した大学に所属する学部学生が、所属する大学以外の協定大学の授業科目を履修し、修得した単位をその学生の所属する大学の単位として認定する制度です。

この制度により、多岐にわたる授業科目の履修が可能となり、皆さんの関心や興味に応じて、それぞれの特色ある授業科目や、本学にはないユニークな授業科目を履修することができます。

「自分の大学では学べない分野や内容について学んでみたい」「他大学の授業を受けることで広い考え方や見方を身につけたい」と思っている方はぜひチャレンジしてみてください。

海外大学単位互換履修制度

この科目は、本学と海外の大学が結んだ単位互換協定にもとづいて実施されるものです。この協定により、協定を結んだ双方の大学に在籍する学生は、各大学が開設する単位互換履修生制度対象の科目を履修して所定の試験に合格した場合は単位を取得することができます。

この制度により履修した科目の単位は、『学部共通科目』の単位として位置付けられます。ただし卒業要件に必要な「学部共通科目 14 単位」は、本学開設科目で履修してください。

調査・研究によって知識を深めるだけでなく、異文化を背景に持つ外国人学生と活動をとるとともに、外国人学生の本学における学修活動を支援することを通して、広い視野、自主性、リーダーシップ、責任感を備えた国際人を育成することを目的とします。

この授業については、履修登録期間中には登録は行わず、事前説明会を行った上で、別途期間を定め履修登録を行います。詳細については、コマシラバスを確認してください。

- 【参加条件】
1. 責任ある態度で主体的かつ積極的な参加ができること。
 2. 異文化交流に関心がある者。
 3. インターネットでの交信が可能なこと。（学内PC利用も含む）

【受講料】 事前説明会の時に詳細について説明します。

【成績】 修得した単位は、年度末に下記の名称で成績表に記載されます。

※学部共通科目の単位として算入することができます。

科目名称	単位数
海外大学単位互換科目Ⅰ	2
海外大学単位互換科目Ⅱ	1

【その他】 事前説明会については別途掲示で連絡します。

海外からの学生が来日しないなど交流行事そのものが実施されない場合、本科目は不開講となります。

愛知学長懇話会単位互換履修生制度

愛知県内全ての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会で締結された「単位互換に関する包括協定」により、加盟大学に所属する学生が他の大学で開講される様々な科目を履修し、所属する大学の単位として認められる制度です。

この制度により履修した科目の単位は、『学部共通科目』の単位として位置付けられます。ただし卒業要件に必要な「学部共通科目 16 単位」は、本学開設科目で履修してください。

本学での学修に支障の出ることのないよう、履修計画を良く考えた上でお願いしてください。ただし、出願した科目が全て受講許可になるとは限りません。受け入れ先大学で選考が行われる場合もありますので注意してください。また、一旦申し込んだ後履修放棄すると授業運営上受け入れ先大学に多大な迷惑を掛けることになります。よ

く考えた上で出願してください。

【履修対象】 2・3・4年次生

【受講料】 免除されます。但し、授業によっては実習費等別途納入が必要なものもあります。

【成績】 修得した単位は、年度末に下記の名称で成績表に記載されます。

※学部共通科目の単位として算入することが出来ます。

科目名称	単位数
単位互換履修生科目A－Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	各2
単位互換履修生科目B－Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	各4

【その他】 「募集要項」、「出願票」等詳細は3月下旬より教務課で配付します。出願期間が非常に短いため、希望者は早めに教務課にて確認してください。

1 1.取得可能な資格について

環境科学部では、授業で学んだ知識を目に見える成果に残す一環として、資格取得を推進しております。下記資格については、環境科学部の授業の単位を修得することによって、資格の取得や、資格試験の一部免除、資格試験の受験資格の取得が可能となります。

資格の内容や申請方法の詳細については、次ページ以降に掲載されている各資格についての説明文や、オリエンテーション時の説明、各資格に係る説明会（ポータルサイトに説明会の案内を掲載します）、ポータルサイトに掲載される資料にて、その内容を確認してください。

《表1 環境科学部の授業の単位を得ることによって取得しやすくなる資格》

資格名	資格取得	試験一部 免除	受験資格 取得	フィールド 生態学科	環境データ サイエンス学科
学芸員	●			●	●
社会調査士・社会調査士 (キャンディデイト)	●			●	●
環境再生医初級	●			●	●
2級ビオトープ管理士		●		●	●
ペストコントロール技能師			●	●	●
鳥獣管理士			●	●	
甲種危険物取扱者			●	●	

学芸員

学芸員とは、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業を行う「博物館法」に定められた国家資格であり、博物館におかれる専門的職員のことです。また、資格取得後に学芸員として活躍するためには、博物館等で任用される必要があります。

この資格を取得するためには、①大学・短大で単位を修得する、もしくは②文部科学省でおこなう資格認定に合格する必要があります。本学においては表2に掲載されている合計9科目19単位を修得することにより、学芸員資格を取得することが可能です。具体的には、表2の「対応科目」に挙げられた①～⑧の8科目16単位を、本学の単位互換協定提携先である放送大学において修得するほか、本学において開講されており、学芸員養成教育の最終段階における科目と位置付けられる「博物館実習」（3単位）を単位修得することにより、併せて学芸員資格が得られます。

《表2 学芸員資格取得に関わる科目一覧》

必要項目	対応科目	単位数
① 生涯学習概論	生涯学習を考える	2
② 博物館概論	博物館概論	2
③ 博物館経営論	博物館経営論	2
④ 博物館資料論	博物館資料論	2
⑤ 博物館資料保存論	博物館資料保存論	2
⑥ 博物館展示論	博物館展示論	2
⑦ 博物館教育論	博物館教育論	2
⑧ 博物館情報・メディア論	博物館情報・メディア論	2
⑨ 博物館実習	博物館実習	3

- 注1) このうち①～⑧の8科目16単位は、本学単位互換協定締結先である放送大学で履修します（別途、放送大学への出願手続きが必要になります）。この出願手続きの詳細については、放送大学ホームページ (<https://www.ouj.ac.jp/>) を参考にしてください。また、学芸員資格取得のためのガイダンス等を本学において予定しています（開催時期については学内の掲示板やポータルサイト等で告知予定です）。
- 注2) ⑨の1科目3単位科目である「博物館実習」は、本学で開講されます。本科目は、学芸員養成教育の最終段階に位置付けられるため、最終段階に履修することが望ましいとされます。

社会調査士・社会調査士（キャンディデイト）

社会調査士とは、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する調査の専門家のことで、一般社団法人社会調査協会が認定する資格です。本学では、社会調査士ならびに社会調査士の科目単位の一部を修得する社会調査士（キャンディデイト）が申請できます。

社会調査士（キャンディデイト）を取得するためには、①本学への在籍期間が1年以上であることに加え、②表3のA～Gに対応した科目単位を申請時まで、3科目以上単位修得していること、③表1を参照し②の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が5科目以上であることが必要となります（申請期間：6月上旬～同月下旬、10月上旬～同月下旬を予定）。

社会調査士を取得するためには、①学部を卒業することに加え、②表3のA～Gに対応した科目単位を全て修得することが必要となります（申請期間：卒業直後の3月下旬～4月上旬を予定）。

資格申請の詳細については、一般社団法人社会調査協会ホームページ（<https://jasr.or.jp/>）を参考にしてください。

《表3 社会調査士・社会調査士(キャンディデイト)資格取得に関わる科目一覧 2024 年度(令和6年度)開講科目》

科目分類	対応科目	単位数
A 科目（社会調査の基本的事項に関する科目）	社会調査概論 / 社会環境調査概論	2
B 科目（調査設計と実施方法に関する科目）	ソーシャルリサーチ&プランニング / 環境リサーチ&プランニング	2
C 科目（基本的な資料とデータの分析に関する科目）	基礎数学	2
D 科目（社会調査に必要な統計学に関する科目）	統計処理法 / 環境統計解析学基礎	4
F 科目（質的な調査と分析の方法に関する科目）	社会調査法Ⅰ / 社会環境調査法Ⅰ	2
G 科目（社会調査を実際に経験し学習する科目）	エコ・フィールド社会実習 / 地域エコ・フィールド社会実習	2
	海外エコ・フィールド社会実習	4

注1) 2023年度以前に履修した科目も認定対象となる場合があります。社会調査協会ホームページをご確認ください（<https://www.jcbsr.jp/display.php?org=545>）。

表3の科目一覧は、2023年12月に申請した2024年度の予定科目であるため、上記ホームページより科目情報を確認することをお勧めします。

注2) 本学では、E科目（多変量解析の方法に関する科目）は開講しておりません。

環境再生医初級

環境再生医とは、「持続可能な社会を創るための知識や技術を持っている」ことを証明する資格です。この資格の取得には、通常は環境関連の実務経験が必要です。そのため学生で取得できるのは、認定校認可を受けた教育機関のみとなります。持続可能な社会には、人間による環境負荷を最低化し、自然と共生し活かす地域・システムづくりが必要となります。環境科学部においてその基礎を学んだ学生は、環境再生医の資格を活かし、これからの持続可能な社会を創る環境人材、あるいはSDGsの達成を目指す人材として活躍することが期待されています。

この資格を取得するためには、表4の「対応科目」に挙げられた科目のすべてについて、単位修得済みであることと、環境再生医「資格取得ガイダンス」のオンライン受講（注1）が必要となります。資格取得は、要件を満たせば2年修了次に申請し認められます。

資格の詳細については、認定NPO法人自然環境復元協会のホームページ（<https://narec.or.jp>）を参考にしてください。

《表4 環境再生医初級資格取得に関わる科目一覧》

必要項目	対応科目	単位数
① 地球環境問題・自然環境復元概論	生態系の機能と社会	2
	人間環境学	2
② 自然環境の再生	景観生態学	2
③ 資源循環・循環型社会の形成	現代社会と経済	2
	環境調査分析	2
④ 環境教育・市民活動	国際協力論	2
	環境と開発	2
	ビオトープ論	2
⑤ 環境行政・法令	環境法制	2

注1) 環境再生医「資格取得ガイダンス」のオンライン受講は、随時配信されます。ポータルサイトをご確認ください。

2級ビオトープ管理士

ビオトープ管理士とは、自然と伝統が共存した美しく強靱な地域の創造を目指す技術者、端的に言えば、自然の保全・再生を任すことが出来る技術者です。ビオトープ管理士には、地域の自然生態系の保護・保全、復元、創出の理念や野生生物等の調査技術を踏まえた上で、専門性の異なる「計画部門」と「施工部門」の2部門があります。

ビオトープ計画管理士は、広域的な地域計画(都市計画、農村計画など)のプランナーが適合します。

ビオトープ施工管理士は、設計・施工にあたる事業現場担当の技術者が適合します。

本学の環境科学部フィールド生態学科および環境データサイエンス学科は、2級ビオトープ計画管理士および2級ビオトープ施工管理士の一部免除認定校に登録されています。この制度を利用すると、各試験科目について、択一問題の半分が免除されます。すなわち、解答しなければならない問題は、共通科目の択一問題は3科目それぞれにつき5問ずつの計15問、専門科目の択一問題は10問、それと小論文1問となります。この制度を利用するためには、表5の「対応科目」に挙げられた科目のすべてについて、単位修得済みであるか、受験する年度内にその見込みがあることが必要となります。単位修得見込みとしてこの制度を利用し、資格試験に合格した場合は、後日実施団体へ成績証明書を提出する必要があります。なお、「ビオトープ管理士資格試験 試験科目」に対応する「対応科目」は、各「ビオトープ管理士資格試験 試験科目」間で重複している科目があります。例として、授業科目として「ビオトープ論」を単位修得した場合は、「ビオトープ管理士資格試験 試験科目」の「生態学」「ビオトープ論」「環境関連法」「計画部門」「施工部門」における、「対応科目」内の「ビオトープ論」を単位修得したと認められます。つまり、2級ビオトープ管理士資格一部免除認定校受験に関わる科目を全て単位修得した場合の総修得単位数は、2級ビオトープ計画管理士と2級ビオトープ施工管理士のどちらも10単位となります。

資格の詳細については、公益財団法人日本生態系協会のホームページ (<https://www.biotop-kanrishi.org>) を参考にしてください。キャンパス受験など受験方法の案内については学内の掲示板やポータルサイト等で告知します。

《各区分の受験資格の条件》

2級ビオトープ計画管理士の一部免除認定校受験：共通科目と専門科目（計画部門）における対応科目の全てを単位修得済み（卒業後5年未満まで有効）あるいは年度内に修得見込みであること。

2級ビオトープ施工管理士の一部免除認定校受験：共通科目と専門科目（施工部門）における対応科目の全てを単位修得済み（卒業後5年未満まで有効）あるいは年度内に修得見込みであること。

他部門受験：2級ビオトープ管理士の計画あるいは施工の資格をすでに有していること。

《表5 2級ビオトープ管理士資格一部免除認定校受験に関わる科目一覧》

ビオトープ管理士資格試験 試験科目		対応科目	単位数
共通科目	生態学	基礎生態学	2
		ビオトープ論	2
		森林生態学	2
	ビオトープ論	森林生態学	2
		ビオトープ論	2
環境関連法	環境政策	2	
	環境法制	2	
	ビオトープ論	2	
専門科目 ¹⁾	計画部門	環境法制	2
		環境政策	2
		基礎生態学	2
		ビオトープ論	2
	施工部門	基礎生態学	2
		ビオトープ論	2

注1) 専門科目は、一度の試験でどちらか一方のみ受験できます。

ペストコントロール技能師

ペストコントロール技能師とは、人に有害な生物の活動を、人の生活を害さないレベルまで制御する技術を有していることを証明する民間資格です。

本学のフィールド生態学科および環境データサイエンス学科は、ペストコントロール技能師の受験資格における『学歴資格』の認定を取得しており、認定科目の単位修得によって受験資格を得られます。受験資格を得た後は、日本ペストコントロール協会が実施する一次（学科）を受講し審査に合格、その後に二次（実技講習および審査）に進みます。二次の審査に合格することで、ペストコントロール技能師として認証されます。この制度を利用するためには、表6の「対応科目」に挙げられた科目のすべてについて、単位修得済みであることが必要となります。資格の詳細については、公益社団法人日本ペストコントロール協会のホームページ（<https://www.pestcontrol.or.jp>）を参考にしてください。大学への申請については学内の掲示板やポータルサイト等で告知します。

《表6 ペストコントロール技能師の受験資格取得に関わる科目一覧》

対応科目	単位数
環境リスク概論	2
生態系の機能と社会	2

鳥獣管理士

鳥獣管理士とは、農作物被害、生態系被害、生活安全など、人と野生鳥獣の軋轢に関する地域課題の解決を担う技術者のことで、一般社団法人鳥獣管理技術協会が認証する民間資格です。

本学のフィールド生態学科は、一般社団法人鳥獣管理技術協会による「JWMS認定プログラムⅠ」の認定校となっており、認定科目の単位の修得およびフィールド生態学科の修了等によって、鳥獣管理士資格試験（準1級・2級・3級）の受験資格が得られます。この制度を利用すると、通常、何十時間もの講習を受けなければ得られない鳥獣管理士資格試験の受験資格を得ることができます。在学中にこの制度を利用するためには、表7の「指定授業科目」に挙げられた科目のうち、受験を希望する級に必要な条件を満たし、申請期間に大学を通して申請する必要があります。

資格の詳細については、一般社団法人社会鳥獣管理技術協会のホームページ（<https://www.jwms-japan.com/>鳥獣管理士/）を参考にしてください。大学への申請については学内の掲示板やポータルサイト等で告知します。

《各級の受験資格の条件》

鳥獣管理士（準1級）の受験資格：フィールド生態学科を修了しており（受験年度を含む過去3カ年間で有効）かつ、鳥獣管理士2級または3級の認定を受けていること。

鳥獣管理士（2級）の受験資格：指定授業科目の中から10単位以上を履修済みであること。

鳥獣管理士（3級）の受験資格：指定授業科目の中から4単位以上を履修済みであること。

《表7 鳥獣管理士受験資格申請に関わる科目一覧（JWMS認定プログラムⅠ）》

認定機関名	学部・学科・コース名	指定授業科目名	単位数
人間環境大学	環境科学部 フィールド生態学科	生態系の機能と社会	2
		フィールド生態学入門	4
		環境と生物の進化	2
		基礎生態学	2
		フィールド生態学基礎実習	2
		SDGs概論	2
		景観生態学	2
		ビオトープ論	2
		植物生態基礎実習	2
		環境政策	2
		森林生態学	2
		動物行動学	2
		動物生態基礎実習	2
		環境法制	2
		生物多様性	2
		地理情報処理法	2
		環境アセスメント論	2
		動物飼養管理学	2
		野生動物管理学	2
		緑地・森林管理学	2
陸生動物保全学	2		
陸生動物生態実習	4		
植物生態実習	4		

甲種危険物取扱者

甲種危険物取扱者は、消防法で指定された全種の危険物について、取り扱いと定期点検、保全の監督ができる、国家資格です。危険物取扱者の資格には、甲種、乙種、丙種があります。その中で、甲種危険物取扱者が最上位の資格となります。

一定数量以上の危険物を貯蔵し、又は取り扱う化学工場、ガソリンスタンド、石油貯蔵タンク、タンクローリー等の施設には、危険物を取り扱うために必ず危険物取扱者を置かなければいけません。甲種危険物取扱者は、大学等において化学に関する授業科目を修め、必要な知識を有すると認められる者に受験資格が与えられます。本学学生が受験資格を得るためには、表8に挙げられたフィールド生態学科共通科目1科目2単位、生態系機能評価科目6科目14単位、環境データサイエンス科目1科目2単位の計18単位うち、15単位以上を修得済みであることが必要となります。

甲種危険物取扱者の受験申請の方法などの詳細については、一般財団法人消防試験研究センターホームページ (<https://www.shoubo-shiken.or.jp/>) を参考にしてください。

《表8 甲種危険物取扱者の受験資格に関わる科目一覧》

対応科目	単位数
生態系における物質循環	2
環境化学の基礎	2
基礎化学実験	2
環境化学実験	2
流域環境学	2
生態系機能評価学	2
生態系機能評価実験	4
環境リスク概論	2

1 2. 特別副専攻プログラム＜環境教育イノベーション＞

プログラム修了認定条件について

環境科学部の学科の領域あるいは専攻に係る分野以外の特定分野について、授業科目を体系的に編成することにより、学生の多様な興味関心を引き出すプログラムとして「特別副専攻プログラム」があります。この特別副専攻プログラムの枠組みの内、「特別副専攻プログラム＜環境教育イノベーション＞」は、環境に関するグローバルで多角的な視野を有し、地域に貢献できる人材養成のためのプログラムとして構成されています。このプログラムを修了した者には、様々な環境に対する感受性を持つとともに、高い興味・関心から学際的な知識を獲得し、環境に対して率先して行動できることの証明として、プログラム修了認定証が授与されます。

修了要件は下記の通りとします。

1. プログラムでの活動期間は3年前期までとする
2. 課外講座として「サステナブルイノベーション（注1）」講座修了認定を受けること
3. 学科ごとに指定された授業科目の単位を修得済みであること

3-a. フィールド生態学科

プログラムの必修科目として「SDGs概論」および「環境リスク概論」の2科目4単位、選択科目として、表9中の、フィールド生態科目から4科目7単位以上と、環境データサイエンス科目1科目2単位以上を修得し、必修と選択を合わせて合計17単位以上を修得すること。

3-b. 環境データサイエンス学科

プログラムの必修科目として「SDGs概論」および「環境リスク概論」の2科目4単位、選択科目として、表10中の、環境データサイエンス科目から4科目7単位以上と、フィールド生態科目1科目2単位以上を修得し、必修と選択を合わせて合計17単位以上を修得すること。

4. 表11に指定する環境教育課外活動に参加し、活動ポイントを500ポイント以上獲得すること

注1) 「サステナブルイノベーション」は、環境科学部長、フィールド生態学科長、環境データサイエンス学科長、環境教育センター長によるオムニバス講座とし、本学の単位認定授業科目から分離した講座として実施します。

《表9 フィールド生態学科所属学生の環境教育イノベーション修了認定に関わる科目一覧》

環境科学部の該当科目一覧			認定に必要な単位		
科目群	授業科目の名称	単位数	必修	選択	
学部共通科目	SDGs概論	2	2		
フィールド生態科目	森林管理実習	1		7以上	
	奥山・里山管理実習	1			
	生態系における物質循環	2			
	景観生態学	2			
	ビオトープ論	2			
	インタープリテーション実習	1			
	潮間帯リサーチ入門	1			
	環境アセスメント論	2			
	動物生態共通科目	動物行動学	2		
		動物生態基礎実習	2		
	植物生態科目	植物生態基礎実習	2		
		緑化・栽培概論	2		
	生態系機能評価科目	環境化学の基礎	2		
		基礎化学実験	2		
環境データサイエンス科目	環境リスク概論	2	2		
	環境情報と社会	2		2以上	
	国際協力論	2			
	環境と多文化共生	2			

《表10 環境データサイエンス学科所属学生の環境教育イノベーション修了認定に関わる科目一覧》

環境科学部の該当科目一覧				認定に必要な単位		
科目群		授業科目の名称	単位数	必修	選択	
学部共通科目		SDGs概論	2	2		
環境データサイエンス科目	環境データサイエンス共通科目	海外エコ・フィールド社会実習	4	7以上		
		地域エコ・フィールド社会実習	2			
	環境情報科目	基本科目	環境リスク概論			2
			環境データ循環学			2
			環境調査分析			2
		展開科目	情報メディア概論			2
			物質循環解析			2
			環境情報ビジネス実習			1
	社会環境科目	基本科目	サステナブルマネジメント			2
			エコツーリズム入門			4
			グローバル化と地域社会			2
		展開科目	国際協力論			2
環境と多文化共生			2			
フィールド生態科目		生態系の機能と社会	2	2	2以上	
		基礎生態学	2			
		自然地理学	2			
		ビオトープ論	2			

《表11 環境教育課外活動ポイント一覧》

環境教育課外活動	名称	説明	ポイント	単位
発表・出展	岡崎大学懇話会	成果発表	100	1/回
	生態系ネットワーク協議会	成果発表	100	1/回
	愛知県主催フォーラム	ブース出展	100	1/回
	その他活動	環境教育センターが審査	100	1/回
学外団体活動	サスティナ研究所	事前審査を経て参加	250	-
	愛知県ユース会議	事前審査を経て参加	40	1/回
	GAIA	事前審査を経て参加	15	1/回
	その他活動	環境教育センターが事前審査	10	1/回
学内活動	ネイチャーダイバーズ	イベント企画・運営	25	1/回
		イベント参加	10	1/回
	環境保全セミナー	イベント企画・運営	25	1/回
		イベント参加	10	1/回
	その他活動	環境教育センターが審査	10	1/回

第II部

カリキュラム

環境科学部 フィールド生態学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
学部 共通 科目	人間環境学	1	2	前期	木	2	工藤 顕太	必修	
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	前期	木	3	立脇 隆文		必修・クラス指定科目
					木	3	中東 明佳		
					木	4	西田 美紀		
					木	4	岡久 雄二		
	基礎ゼミナールⅠ (再履修)	1	2	前期	火	5	菅原 太		
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	後期	木	3	立脇 隆文	必修・クラス指定科目	
					木	3	中東 明佳		
					木	4	西田 美紀		
					木	4	岡久 雄二		
	基礎ゼミナールⅡ (再履修)	1	2	後期	火	5	菅原 太		
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1	2	通年	集中		花井 しおり		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2	1	通年	集中		花井 しおり		
	単位互換履修生科目	別途要項を確認ください。							
	キャリアデザイン	1	2	前期	木	1	樋口 貴子	必修	
	ビジネスコミュニケーション	3	2	前期	木	4	樋口 貴子		
	キャリア形成演習	3	1	後期	集中		樋口 貴子		
	情報処理実習Ⅰ	1	1	前期	水	2	杉谷 誠弥	必修・クラス指定科目	
	情報処理実習Ⅰ (再履修)	1	1	前期	金	5	杉谷 誠弥		
	情報処理実習Ⅱ	1	1	後期	水	2	杉谷 誠弥		
	情報処理実習Ⅱ (再履修)	1	1	後期	金	5	杉谷 誠弥		
	スポーツ実習	1	1	後期	集中		菅原 太		
	英語Ⅰ	1	2	前期	木	3	鬼谷 美紀	必修・クラス指定科目	
					木	4	鬼谷 美紀		
	英語Ⅱ	1	2	後期	木	3	鬼谷 美紀		
					木	4	鬼谷 美紀		
	英語Ⅲ	2	2	前期	水	2	岡 良和		
	英語Ⅳ	2	2	後期	水	2	岡 良和		
	英会話Ⅰ	1	2	前期	金	5	鬼谷 美紀		
	英会話Ⅱ	1	2	後期	金	5	鬼谷 美紀		
	ドイツ語Ⅰ	1	2	前期	水	3	城田 純平		
	ドイツ語Ⅱ	1	2	後期	水	4	城田 純平		
	日本語表現論	1	2	前期	火	3	花井 しおり		
芸術文化論	1	2	後期	火	1	菅原 太			
言語学	1	2	後期	木	2	岡 良和			
キャリア教養基礎	1	1	後期	火	5	名古屋大原学園			
SDGs概論	1	2	後期	水	1	環境科学部教員	必修		
地域環境ガバナンス	3	2	後期	火	2	藤井 芳一			
ビジネス英語	2	2	前期	金	4	鬼谷 美紀			
生涯学習を考える	2	2	前期	放送大学単位互換科目			学芸員養成課程必修		
博物館概論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館経営論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館資料論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館資料保存論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館展示論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館教育論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館情報・メディア論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館実習	3	3	通年	集中		久松 定智			
臨床心理学概論	1	2	後期	月	2	二宮 有輝			
教育・学校心理学	1	2	後期	月	4	坂本 真也			

環境科学部 フィールド生態学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考
学部 共通 科目	人間存在論	1	2	後期	木	1	工藤 顕太	
	学習・言語心理学	2	2	前期	火	2	鎌水 秀和	
	社会・集団・家族心理学	2	2	前期	火	3	吉武 久美	
	知覚・認知心理学	2	2	前期	木	2	西山 めぐみ	
	法と倫理	2	2	後期	水	1	工藤 顕太	
	感情・人格心理学	2	2	後期	木	2	西木 貴美子	
	産業・組織心理学	3	2	前期	金	1	和田 剛宗	
フィールド 生態 科目	生態系の機能と社会	1	2	前期	水	1	藤井 芳一	必修
	自然地理学	1	2	前期	金	2	横家 将納	必修
	基礎生物学	1	2	前期	火	1	藤井 伸二	必修
	フィールド生態学入門	1	4	前期	月	3・4	フィールド教員	必修
	海と川の生物学	1	2	前期	金	1	西田 美紀	
	森林管理実習	1	1	前期	集中		森岡 伸介	
	奥山・里山管理実習	1	1	前期	集中		岡久 雄二	
	海洋ダイビング実習	1	1	前期	集中		中束 明佳	
	環境と生物の進化	1	2	後期	月	1	藤井 伸二	必修
	基礎生態学	1	2	後期	木	2	立脇 隆文	必修
	基礎数学	1	2	後期	木	1	神本 祐樹	必修・クラス指定科目
				後期	木	1	森岡 伸介	
	フィールド生態学基礎実習	1	2	後期	月	3・4	藤井伸・久松・中束	必修
	コミュニケーションスキルズ	1	2	後期	月	2	林 加代子	必修
	環境昆虫学	1	2	後期	火	2	久松 定智	
	生態系における物質循環	1	2	後期	火	1	神本 祐樹	
	学術論文講読Ⅰ	2	2	前期	金	1	神本 祐樹	必修
							森岡 伸介	
							江口 則和	
							久松 定智	
	学術論文講読Ⅱ	2	2	後期	金	1	神本 祐樹	必修
							森岡 伸介	
							江口 則和	
							久松 定智	
	統計プログラミング実習	2	1	前期	火	2	西田 美紀	必修
							中束 明佳	
統計処理法	2	4	後期	火	1・2	立脇 隆文	必修	
						江口 則和		
生物多様性	3	2	前期	木	4	藤井 伸二	必修	
地理情報処理法	3	2	前期	火	1	横家 将納	必修	
						岡久 雄二		
海洋生態学	2	2	前期	木	2	中束 明佳		
景観生態学	2	2	前期	金	2	岡久 雄二		
ピオトープ論	2	2	前期	木	1	久松 定智		
フィールド生態学演習Ⅰ	3	2	前期	水	2	藤井芳・神本	必修	
						立脇 隆文		
						西田 美紀		
						久松 定智		
						横家 将納		
						藤井 伸二		
						江口 則和		
						森岡 伸介		
岡久 雄二								
中束 明佳								

環境科学部 フィールド生態学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
フィールド生態共通科目	フィールド生態学演習Ⅱ	3	2	後期	水	2	藤井芳・神本 立脇 隆文 西田 美紀 久松 定智 横家 将納 藤井 伸二 江口 則和 森岡 伸介 岡久 雄二 中東 明佳	必修	
	フィールド生態学演習Ⅲ	4	2	前期	本年度不開講			必修	
	フィールド生態学演習Ⅳ	4	2	後期	本年度不開講			必修	
	農業基礎実習Ⅰ	2	2	前期	月	3・4	横家 将納	定員30名	
	農業基礎実習Ⅱ	2	2	後期	月	3・4	横家 将納	定員30名	
	潮間帯リサーチ入門	2	1	前期	水	1	西田 美紀	定員15名	
	インタープリテーション実習	2	1	前期	水	1	久松 定智	定員15名	
	インターンシップⅠ	2	1	前期	集中		中東 明佳		
	インターンシップⅡ	3	1	前期	集中		藤井 芳一		
	水族館展示実習	2	1	前期	火	1	小林 龍二	定員40名	
	森林生態学	2	2	後期	月	2	江口 則和		
	河川生態学	2	2	後期	木	2	森岡 伸介		
	環境気象学	2	2	後期	月	1	横家 将納		
	生物資源学	2	2	後期	金	3	織田 銃一		
	動物園・水族館実習	2	1	通年	集中		立脇・西田		
	環境アセスメント論	3	2	前期	木	3	小串 重治		
	動物飼養管理学	3	2	前期	集中		八代田 真人	8/5~8/8(予備日8/9)	
	共通科目 動物生態	動物分類学	2	2	前期	月	1	久松 定智	
		動物行動学	2	2	後期	木	3	西田 美紀	
		動物生態基礎実習	2	2	後期	火	3・4	森岡 伸介 西田 美紀 岡久 雄二	定員60名
生態動物科目	野生動物管理学	3	2	前期	木	2	立脇 隆文		
	陸生動物保全学	3	2	後期	木	1	岡久 雄二		
	陸生動物生態実習	3	4	通年	金	3・4	立脇・久松・岡久	定員21名	
生態水生物科目	水生動物保全学	3	2	前期	木	1	森岡 伸介		
	海洋資源管理学	3	2	後期	金	2	中東 明佳		
	水生動物生態実習	3	4	通年	金	3・4	森岡・西田・中東	定員21名	
植物生態科目	植物分類学	2	2	前期	木	3	藤井 伸二		
	植物生態基礎実習	2	2	前期	火	3・4	江口・藤井伸	定員40名	
	緑化・栽培概論	2	2	後期	金	2	小谷 博光		
	緑地・森林管理学	3	2	前期	月	2	江口 則和		
	環境適応型農業	3	2	後期	木	2	横家 将納		
植物生態実習	3	4	通年	金	3・4	横家・藤井伸・江口	定員21名		
生態系機能評価科目	環境化学の基礎	2	2	前期	月	2	神本 祐樹		
	基礎化学実験	2	2	前期	金	3・4	藤井 芳一	定員22名	
	環境化学実験	2	2	後期	金	3・4	神本 祐樹	定員22名	
	流域環境学	3	2	前期	月	1	神本 祐樹		
	生態系機能評価学	3	2	後期	木	4	藤井 芳一		
生態系機能評価実験	3	4	通年	火	3・4	藤井芳・神本	定員14名		

環境科学部 フィールド生態学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考
環境データサイエンス科目	環境情報リテラシー	1	2	前期	月	2	薄井 智貴	定員5名 定員5名 定員15名 9/21(2~4限)、10/26、11/16、12/14(1~4限) 定員10名 定員10名 必修
	社会環境調査概論	1	2	前期	月	1	谷川 彩月	
	環境リスク概論	1	2	前期	火	3	谷地 俊二	
	現代社会と経済	1	2	前期	火	4	山根 卓二	
	環境情報と社会	1	2	後期	木	1	平山 高嗣	
	環境リサーチ&プランニング	1	2	後期	金	2	谷川 彩月	
	環境経済学入門	1	2	後期	火	4	山根 卓二	
	環境倫理	1	2	後期	水	3	城田 純平	
	データサイエンス概論	2	2	前期	月	3	薄井 智貴	
	社会環境調査法Ⅰ	2	1	前期	金	3	小谷 博光	
	社会環境調査法Ⅱ	2	1	後期	月	2	谷川 彩月	
	環境政策	2	2	前期	木	4	矢部 隆	
	国際協力論	2	2	前期	月	2	小谷 博光	
	農業・情報キャリア論	2	2	後期	金	4	小谷 博光	
	地域エコ・フィールド社会実習	2	2	通年	集中		谷川 彩月	
	環境と開発	2	2	後期	火	2	小谷 博光	
	環境法制	2	2	後期	集中		岩田 成恭	
	環境と多文化共生	2	2	後期	木	1	鬼谷 美紀	
	環境調査分析	2	2	後期	火	1	谷地 俊二	
	スマートアグリ概論	3	2	前期	金	4	中井 譲	
環境経済学史	3	2	前期	金	2	山根 卓二		
環境センシング実習	3	1	後期	木	3	小串 重治		
地球環境変動論	3	2	後期	火	1	蛭田 有希		
地方創生実習	2	1	通年	集中		平山 高嗣		
卒業論文	卒業論文	4	6	通年	本年度不開講			

フィールド生態学 科目表

選択

卒業生の
人育成目標

生態学や、その専門に必要となる基礎知識を身に付けるとともに、フィールド調査の基礎を学ぶ。

環境情報リサーチ
社会環境調査概論
環境リスク概論
現代社会と経済

環境情報と社会
環境リサーチ&プランニング
環境経済学入門
環境倫理

2 英語Ⅰ
2 英語Ⅱ
2 トイソⅡ
2 英語学
2 芸術文化論
2 臨床心理学概論
2 教育・学校心理学
2 人間存続論
2 キャリア教育基礎

2 英語Ⅲ
1 シノブス英語
2 学習・言語心理学
2 社会・集団・発達心理学
2 知覚・認知心理学
2 発達心理学を考える
2 植物学概論
2 植物学実習
2 植物学展示論
2 植物学教育論
2 植物学情報・メディア論

2 海外大学単位互換科目Ⅰ
2 英語Ⅲ
1 シノブス英語
2 学習・言語心理学
2 社会・集団・発達心理学
2 知覚・認知心理学
2 発達心理学を考える
2 植物学概論
2 植物学実習
2 植物学展示論
2 植物学教育論
2 植物学情報・メディア論

2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験
2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験

2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験
2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験

2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験
2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験

2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験
2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験

2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験
2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験

2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験
2 植物分類学
2 植物生態学概論
2 環境化学の基礎
2 環境化学実験

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

卒業論文

</

環境科学部 環境データサイエンス学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
学部 共通 科目	人間環境学	1	2	前期	木	2	工藤 顕太	必修	
	基礎ゼミナールⅠ	1	2	前期	金	4	蛭田 有希	必修・クラス指定科目	
							谷地 俊二		
							谷川 彩月		
	基礎ゼミナールⅠ（再履修）	1	2	前期	火	5	菅原 太		
	基礎ゼミナールⅡ	1	2	後期	金	4	蛭田 有希	必修・クラス指定科目	
							谷地 俊二		
							谷川 彩月		
	基礎ゼミナールⅡ（再履修）	1	2	後期	火	5	菅原 太		
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1	2	通年	集中		花井 しおり		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2	1	通年	集中		花井 しおり		
	単位互換履修生科目	別途要項を確認ください。							
	キャリアデザイン	1	2	前期	木	1	樋口 貴子	必修	
	ビジネスコミュニケーション	3	2	前期	木	4	樋口 貴子		
	キャリア形成演習	3	1	後期	集中		樋口 貴子		
	情報処理実習Ⅰ	1	1	前期	金	3	蛭田 有希	必修・クラス指定科目	
	情報処理実習Ⅰ（再履修）	1	1	前期	金	5	杉谷 誠弥		
	情報処理実習Ⅱ	1	1	後期	金	3	蛭田 有希		
	情報処理実習Ⅱ（再履修）	1	1	後期	金	5	杉谷 誠弥		
	スポーツ実習	1	1	後期	集中		菅原 太		
	英語Ⅰ	1	2	前期	水	2	鬼谷 美紀	必修・クラス指定科目 ・水曜2限は、1・2年次生用 ・木曜4限は、3年次生用	
					木	4	鬼谷 美紀		
	英語Ⅱ	1	2	後期	水	2	鬼谷 美紀		
					木	4	鬼谷 美紀		
	英語Ⅲ	2	2	前期	水	2	岡 良和		
	英語Ⅳ	2	2	後期	水	2	岡 良和		
	英会話Ⅰ	1	2	前期	金	5	鬼谷 美紀		
	英会話Ⅱ	1	2	後期	金	5	鬼谷 美紀		
	ドイツ語Ⅰ	1	2	前期	水	3	城田 純平		
	ドイツ語Ⅱ	1	2	後期	水	4	城田 純平		
	日本語表現論	1	2	前期	火	3	花井 しおり		
	芸術文化論	1	2	後期	火	1	菅原 太		
	言語学	1	2	後期	木	2	岡 良和		
	キャリア教養基礎	1	1	後期	火	5	名古屋大原学園		
	SDGs概論	1	2	後期	水	1	環境科学部教員	必修	
	地域環境ガバナンス	3	2	後期	火	2	藤井 芳一		
	ビジネス英語	2	2	前期	金	4	鬼谷 美紀		
	生涯学習を考える	2	2	前期	放送大学単位互換科目				学芸員養成課程必修
	博物館概論	2	2	前期	放送大学単位互換科目				
	博物館経営論	2	2	前期	放送大学単位互換科目				
博物館資料論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館資料保存論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館展示論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館教育論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館情報・メディア論	2	2	前期	放送大学単位互換科目					
博物館実習	3	3	通年	集中		久松 定智			
臨床心理学概論	1	2	後期	月	2	二宮 有輝			
教育・学校心理学	1	2	後期	月	4	坂本 真也			
人間存在論	1	2	後期	木	1	工藤 顕太			
学習・言語心理学	2	2	前期	火	2	鎌水 秀和			
社会・集団・家族心理学	2	2	前期	火	3	吉武 久美			

環境科学部 環境データサイエンス学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考	
学部 共通 科目	知覚・認知心理学	2	2	前期	木	2	西山 めぐみ		
	法と倫理	2	2	後期	水	1	工藤 顕太		
	感情・人格心理学	2	2	後期	木	2	西木 貴美子		
	産業・組織心理学	3	2	前期	金	1	和田 剛宗		
環境 データ サイエ ンス 科目	環境情報リテラシー	1	2	前期	月	2	薄井 智貴	必修	
	三河に学ぶ	1	1	前期	月	4	小谷 博光	必修	
	社会環境調査概論	1	2	前期	月	1	谷川 彩月	必修	
	環境情報と社会	1	2	後期	木	1	平山 高嗣	必修	
	環境リサーチ&プランニング	1	2	後期	金	2	谷川 彩月	必修	
	データサイエンス概論	2	2	前期	月	3	薄井 智貴	必修	
	社会環境調査法Ⅰ	2	1	前期	金	3	小谷 博光	必修	
	社会環境調査法Ⅱ	2	1	後期	月	2	谷川 彩月	必修	
	農業・情報キャリア論	2	2	後期	金	4	小谷 博光	必修	
	学術文献講読Ⅰ	2	2	前期	金	1	山根 卓二	}	必修
							谷地 俊二		
							蛭田 有希		
	学術文献講読Ⅱ	2	2	後期	金	1	山根 卓二	}	必修
							谷地 俊二		
							蛭田 有希		
	環境データサイエンス演習Ⅰ	3	2	前期	水	2	磯貝 明	}	必修
							山根 卓二		
							小谷 博光		
							谷川 彩月		
							谷地 俊二		
							薄井 智貴		
							平山 高嗣		
	蛭田 有希								
環境データサイエンス演習Ⅱ	3	2	後期	水	2	磯貝 明	}	必修	
						山根 卓二			
						小谷 博光			
						谷川 彩月			
						谷地 俊二			
						薄井 智貴			
						平山 高嗣			
蛭田 有希									
環境データサイエンス演習Ⅲ	4	2	前期	本年度不開講			必修		
環境データサイエンス演習Ⅳ	4	2	後期	本年度不開講			必修		
環境センシング実習	3	1	後期	木	3	小串 重治	必修		
海外エコ・フィールド社会実習	2	4	後期	集中		鬼谷・小谷			
地域エコ・フィールド社会実習	2	2	通年	集中		谷川 彩月			
スマートアグリ概論	3	2	前期	金	4	中井 譲			
インターンシップ	3	1	前期	集中		薄井 智貴			
環境データサイエンスプロジェクト	3	2	前期	集中		平山・谷川	必修		
地方創生実習	2	1	通年	集中		平山 高嗣	定員10名		

環境科学部 環境データサイエンス学科 カリキュラム

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考
環境データサイエンス科目	環境情報基本科目	環境リスク概論	1	2	前期	火	3	谷地 俊二	2025/2/3(2~4限)、2/4,5,10(1~4限)、2/12(試験)
		基礎数学	1	2	後期	火	3	谷地 俊二	
		環境統計解析学基礎	2	4	前期	火	1・2	谷地 俊二	
		環境プログラミング基礎	2	4	後期	木	3・4	平山 高嗣	
		環境調査分析	2	2	後期	火	1	谷地 俊二	
		環境データ循環学	2	2	後期	月	3	薄井 智貴	
		地理空間情報学	3	2	前期	火	3	薄井 智貴	
		環境ビッグデータ解析	3	2	前期	木	1	平山 高嗣	
		人工知能と機械学習	3	2	後期	金	3	平山 高嗣	
	環境情報展開科目	Rプログラミング入門	1	2	後期	月	2	薄井 智貴	
		情報メディア概論	2	2	前期	木	3	平山 高嗣	
		環境統計解析学応用	2	2	後期	火	4	蛭田 有希	
		環境プログラミング応用	3	2	前期	火	4	平山 高嗣	
		物質循環解析	3	2	前期	金	3	谷地 俊二	
		環境情報ビジネス実習	3	1	前期	集中		薄井 智貴	
		環境ビジュアルライゼーション	3	2	後期	木	2	西海 望	
		都市・自然環境IoT	3	2	後期	火	4	薄井 智貴	
		環境データベース入門	3	2	後期	集中		西海 望	
	社会環境基本科目	サステナブルマネジメント	1	2	前期	木	3	磯貝 明	
		現代社会と経済	1	2	前期	火	4	山根 卓二	
		環境経済学入門	1	2	後期	火	4	山根 卓二	
		エコソリズム入門	2	4	前期	集中		小林・薄井	
		環境政策	2	2	前期	木	4	矢部 隆	
		環境と開発	2	2	後期	火	2	小谷 博光	
		グローバル化と地域社会	3	2	前期	月	2	谷川 彩月	
		食料安全保障と栄養	3	2	前期	月	1	小谷 博光	
		環境社会学	3	2	後期	月	3	谷川 彩月	
環境エネルギー論		3	2	後期	火	3	山根 卓二		
社会環境展開科目		環境倫理	1	2	後期	水	3	城田 純平	
		企業会計	1	4	後期	木	3・4	磯貝・榊原	
		新時代の国際貿易と環境リスク	2	2	前期	水	1	山根 卓二	
		国際協力論	2	2	前期	月	2	小谷 博光	
		経営データ・ESG投資分析	2	4	通年	木	2	磯貝・横山	
		環境法制	2	2	後期	集中		岩田 成恭	
		環境と多文化共生	2	2	後期	木	1	鬼谷 美紀	
		環境経済学史	3	2	前期	金	2	山根 卓二	
	環境経営	3	2	前期	集中		大谷 聡子		
	地球環境変動論	3	2	後期	火	1	蛭田 有希		
地域経済	3	2	後期	金	2	塚本 高浩			

環境科学部 環境データサイエンス学科 カリキュラム

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数	期間	曜日	時限	担当教員	備考
フ イ ー ル ド 生 態 科 目	生態系の機能と社会	1	2	前期	水	1	藤井 芳一	
	自然地理学	1	2	前期	金	2	横家 将納	
	海と川の生物学	1	2	前期	金	1	西田 美紀	
	基礎生態学	1	2	後期	木	2	立脇 隆文	
	環境昆虫学	1	2	後期	火	2	久松 定智	
	生態系における物質循環	1	2	後期	火	1	神本 祐樹	
	海洋生態学	2	2	前期	木	2	中束 明佳	
	景観生態学	2	2	前期	金	2	岡久 雄二	
	ビオトープ論	2	2	前期	木	1	久松 定智	
	森林生態学	2	2	後期	月	2	江口 則和	
	河川生態学	2	2	後期	木	2	森岡 伸介	
	環境気象学	2	2	後期	月	1	横家 将納	
	生物資源学	2	2	後期	金	3	織田 銃一	
	環境アセスメント論	3	2	前期	木	3	小串 重治	
卒業論文	卒業論文	4	6	通年	本年度不開講		必修	

環境データサイエンス学科 科目表

科目区分	学修目標科目	卒業論文	環境データサイエンス共通科目				環境データサイエンス専攻科目				学修目標科目	学修単位数	学生ごとの 入修制限	
			基礎科目		応用科目		基礎科目		応用科目					
			環境データサイエンス基礎科目	環境データサイエンス応用科目	環境データサイエンス基礎科目	環境データサイエンス応用科目	環境データサイエンス基礎科目	環境データサイエンス応用科目	環境データサイエンス基礎科目	環境データサイエンス応用科目				
1年次	人間環境学 基礎ゼミナールⅠ 2	環境情報リテラシー 3単位等分 2	環境リスク概論 2	サステナブルなサステナブル 現代社会と経済 2	自然地理学 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2	環境学Ⅰ 2
	環境学Ⅰ 1	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2	環境学Ⅱ 2
	環境学Ⅱ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2	環境学Ⅲ 2
	環境学Ⅲ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2	環境学Ⅳ 2
2年次	環境学Ⅳ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2	環境学Ⅴ 2
	環境学Ⅴ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2	環境学Ⅵ 2
	環境学Ⅵ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2	環境学Ⅶ 2
	環境学Ⅶ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2	環境学Ⅷ 2
3年次	環境学Ⅷ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2	環境学Ⅸ 2
	環境学Ⅸ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2	環境学Ⅹ 2
	環境学Ⅹ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2	環境学Ⅺ 2
	環境学Ⅺ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2	環境学Ⅻ 2
4年次	環境学Ⅻ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2	環境学Ⅼ 2
	環境学Ⅼ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2	環境学Ⅽ 2
	環境学Ⅽ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2	環境学Ⅾ 2
	環境学Ⅾ 2	環境情報と社会 2	基礎数学 2	環境経済学入門 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2	環境学Ⅿ 2

第Ⅲ部

教員名簿

教育課程および履修方法に関する規程

人間環境大学 授業に関する規程

校舎案内図

環境科学部 非常勤講師一覧
(五十音順)

氏 名	メールアドレス	本務校等
岩田 成恭	m-iwata@uhe.ac.jp	
大谷 聡子	s-otani@uhe.ac.jp	
織田 銃一	s-oda@uhe.ac.jp	
亀山 知樹	t-kameyama@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
小串 重治	s-kogushi@uhe.ac.jp	グリーンフロント研究所株式会社
小林 昭広	a-kobayashi@uhe.ac.jp	エコニコ・ファシリテーション事務所
小林 龍二	r-kobayashi@uhe.ac.jp	
榊原 真澄	sakakibara@uhe.ac.jp	
鈴木 茂行	s-suzuki@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
塚本 高浩	tak-tsukamoto@uhe.ac.jp	
中井 譲	j-nakai@uhe.ac.jp	
西海 望	n-nishiumi@uhe.ac.jp	自然科学研究機構 基礎生物学研究所
八代田 真人	m-yayota@uhe.ac.jp	
林 加代子	ka-hayashi@uhe.ac.jp	
樋口 貴子	t-higuchi@uhe.ac.jp	
矢部 隆	t-yabe@uhe.ac.jp	
山田 歩実	a-yamada@uhe.ac.jp	名古屋大原学園
横山 真紀子	yokoyama@uhe.ac.jp	
川瀬 誠子	-	(助手)
番野 まどか	banno@uhe.ac.jp	(助手)
宮西 葵	a-miyanishi@uhe.ac.jp	(助手)
安井 尚美	n-yasui@uhe.ac.jp	(助手)

※1 メールの使用については、授業担当者より指示を受けてください。

人間環境大学環境科学部フィールド生態学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第1条 この規程は、人間環境大学学則第29条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) フィールド生態科目
- (3) 環境データサイエンス科目
- (4) 卒業論文

(卒業単位)

第3条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め126単位以上を修得しなければならない。

- | | |
|---------------------------------|---------|
| (1) 学部共通科目 | 16 単位以上 |
| ただし、必修科目 16 単位を含むこと。 | |
| (2) フィールド生態科目 | 65 単位以上 |
| イ フィールド生態共通科目 | 41 単位以上 |
| ただし、必修科目 41 単位を含むこと。 | |
| ロ 前項（フィールド生態共通科目）以外の科目 | 24 単位以上 |
| ただし、以下の a、b、c、d のいずれかの要件を満たすこと。 | |
| a 動物生態共通科目 6 単位および陸生動物生態科目 8 単位 | |
| b 動物生態共通科目 6 単位および水生動物生態科目 8 単位 | |
| c 植物生態科目 14 単位 | |
| d 生態系機能評価科目 14 単位 | |
| (3) 環境データサイエンス科目 | 8 単位以上 |
| (4) 卒業論文 | 6 単位 |

(領域の選択)

第4条 2年次に陸生動物生態領域、水生動物生態領域、植物生態領域、生態系機能評価領域のいずれかを選択する。

(開設授業科目)

第5条 本学が開設する授業科目は、別表1のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第6条 1年間に履修科目として登録できる単位数は46単位以下とする。なお、前年度のGPAが3.50以上の場合、登録できる単位数は50単位以下とする。また、前年度のGPAが0.70未満の場合、登録できる単位数は45単位以下とする。

- 2 3年次配当の演習科目を履修する為には、前年度までに40単位以上の修得かつ通算GPA0.43以上であることを条件とし、4年次以上の学生は前年度までに40単位以上を修得することのみ条件とする。
- 3 フィールド生態学演習は、I、II、III、IVの順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修することはできない。なお、前項の条件に満たない場合は4年の在学期間での卒業が不可となる。

(成績)

第7条 学則第34条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
100～90点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(綜合成績評価)

第8条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、綜合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPAを算出する基準は、次のとおりとする。

$GPA = (\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}) \text{の総和} / \text{履修登録した授業科目の単位数の総和}$

3 成績証明書には、GPAは明記しない。

4 GPA対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1)成績の評価点が認定となる科目
- (2)定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3)その他、卒業要件に算入されない科目

(学芸員養成課程)

第9条 卒業の認定を受ける学生が博物館法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得したときには、学芸員の資格を得ることができる。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、環境科学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附則 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

環境科学部フィールド生態学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
	人間環境学	1	2			
	基礎ゼミナールⅠ	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4		
	単位互換履修生科目C-Ⅰ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅲ	2		1		
	キャリアデザイン	1	2			
	ビジネスコミュニケーション	3		2		
	キャリア形成演習	3		1		
	情報処理実習Ⅰ	1	1			
	情報処理実習Ⅱ	1	1			
	スポーツ実習	1		1		
	英語Ⅰ	1	2			
	英語Ⅱ	1	2			
	英語Ⅲ	2		2		
	英語Ⅳ	2		2		
	英会話Ⅰ	1		2		
	英会話Ⅱ	1		2		
	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	ドイツ語Ⅱ	1		2		
	日本語表現論	1		2		
	芸術文化論	1		2		
	言語学	1		2		
	キャリア教養基礎	1		1		
	SDGs概論	1	2			
	地域環境ガバナンス	3		2		
	ビジネス英語	2		2		
	生涯学習を考える	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館概論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館経営論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館資料論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館資料保存論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館展示論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館教育論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館情報・メディア論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館実習	3		3		※学芸員養成課程必修
	臨床心理学概論	1		2		
	教育・学校心理学	1		2		
	人間存在論	1		2		
	学習・言語心理学	2		2		
	社会・集団・家族心理学	2		2		
	知覚・認知心理学	2		2		
	法と倫理	2		2		
	感情・人格心理学	2		2		
	産業・組織心理学	3		2		

授業科目の概要

学部
共通科目

環境科学部フィールド生態学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授業科目の概要	フィールド生態共通科目	生態系の機能と社会	1	2		
		自然地理学	1	2		
		基礎生物学	1	2		
		フィールド生態学入門	1	4		
		海と川の生物学	1		2	
		森林管理実習	1		1	
		奥山・里山管理実習	1		1	
		海洋ダイビング実習	1		1	
		環境と生物の進化	1	2		
		基礎生態学	1	2		
		基礎数学	1	2		
		フィールド生態学基礎実習	1	2		
		コミュニケーションスキルズ	1	2		
		環境昆虫学	1		2	
		生態系における物質循環	1		2	
		学術論文講読Ⅰ	2	2		
		学術論文講読Ⅱ	2	2		
		統計プログラミング実習	2	1		
		統計処理法	2	4		
		生物多様性	3	2		
		地理情報処理法	3	2		
		海洋生態学	2		2	
		景観生態学	2		2	
		ビオトープ論	2		2	
		フィールド生態学演習Ⅰ	3	2		
		フィールド生態学演習Ⅱ	3	2		
		フィールド生態学演習Ⅲ	4	2		
		フィールド生態学演習Ⅳ	4	2		
		農業基礎実習Ⅰ	2		2	
		農業基礎実習Ⅱ	2		2	
		潮間帯リサーチ入門	2		1	
		インタープリテーション実習	2		1	
		インターンシップⅠ	2		1	
		インターンシップⅡ	3		1	
		水族館展示実習	2		1	
		森林生態学	2		2	
		河川生態学	2		2	
		環境気象学	2		2	
		生物資源学	2		2	
		動物園・水族館実習	2		1	
		環境アセスメント論	3		2	
		動物飼養管理学	3		2	
		共通動物生態科目	動物分類学	2		2
動物行動学	2			2		
動物生態基礎実習	2			2		
陸生動物生態科目	野生動物管理学	3		2		
	陸生動物保全学	3		2		
	陸生動物生態実習	3		4		
水生動物生態科目	水生動物保全学	3		2		
	海洋資源管理学	3		2		
	水生動物生態実習	3		4		

環境科学部フィールド生態学科【別表1】

		授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
				必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	フ ィ ー ル ド	植 物 生 態 科 目	植物分類学	2		2	
			植物生態基礎実習	2		2	
			緑化・栽培概論	2		2	
			緑地・森林管理学	3		2	
			環境適応型農業	3		2	
			植物生態実習	3		4	
	生 態 科 目	評 価 系 機 能	環境化学の基礎	2		2	
			基礎化学実験	2		2	
			環境化学実験	2		2	
			流域環境学	3		2	
			生態系機能評価学	3		2	
			生態系機能評価実験	3		4	
	環 境 デ ー タ サイ エ ン ス 科 目		環境情報リテラシー	1		2	
			社会環境調査概論	1		2	
			環境リスク概論	1		2	
			現代社会と経済	1		2	
			環境情報と社会	1		2	
			環境リサーチ&プランニング	1		2	
			環境経済学入門	1		2	
			環境倫理	1		2	
			データサイエンス概論	2		2	
			社会環境調査法Ⅰ	2		1	
			社会環境調査法Ⅱ	2		1	
			環境政策	2		2	
			国際協力論	2		2	
			農業・情報キャリア論	2		2	
			地域エコ・フィールド社会実習	2		2	
			環境と開発	2		2	
			環境法制	2		2	
			環境と多文化共生	2		2	
			環境調査分析	2		2	
			スマートアグリ概論	3		2	
			環境経済学史	3		2	
環境センシング実習			3		1		
地球環境変動論			3		2		
地方創生実習	2		1				
	卒業論文	4	6				

人間環境大学環境科学部環境データサイエンス学科 教育課程および履修方法に関する規程

(準拠)

第1条 この規程は、人間環境大学学則第29条に基づき教育課程および履修方法について定める。

- 2 編入学又は転入学を許可された者の履修方法については別に定める。
- 3 大学院の教育課程および履修方法については、別に定める。

(授業科目の区分)

第2条 授業科目は、以下の科目に区分する。

- (1) 学部共通科目
- (2) 環境データサイエンス科目
- (3) フィールド生態科目
- (4) 卒業論文

(卒業単位)

第3条 本学を卒業するためには、前条に定める科目群から以下の必要単位数を含め126単位以上を修得しなければならない。

- (1) 学部共通科目 16単位以上
ただし、必修科目16単位を含むこと。
- (2) 環境データサイエンス科目 72単位以上
イ 環境データサイエンス共通科目 30単位以上
ただし、必修科目30単位を含むこと。
ロ 環境情報科目ならびに社会環境科目 42単位以上
ただし、以下のa、bのいずれかの要件を満たすこと。
a 環境情報科目の環境情報基本科目22単位および環境情報展開科目から8単位、ならびに社会環境科目から12単位
b 社会環境科目の社会環境基本科目22単位および社会環境展開科目から8単位、ならびに環境情報科目から12単位
- (3) フィールド生態科目 8単位以上
- (4) 卒業論文 6単位

(領域の選択)

第4条 2年次に環境情報領域、社会環境領域のいずれかを選択する。

(開設授業科目)

第5条 本学が開設する授業科目は、別表1のとおりとする。

(履修科目の登録の上限と制限)

第6条 1年間に履修科目として登録できる単位数は46単位以下とする。なお、前年度のGPAが3.50以上の場合、登録できる単位数は50単位以下とする。また、前年度のGPAが0.70未満の場合、登録できる単位数は45単位以下とする。

- 2 3年次配当の演習科目を履修する為には、前年度までに40単位以上の修得かつ通算GPA0.43以上であることを条件とし、4年次以上の学生は前年度までに40単位以上を修得することのみ条件とする。
- 3 環境データサイエンス演習は、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの順番で修得することとし、同時に、又は飛び越えて履修することはできない。なお、前項の条件に満たない場合は4年の在学期間での卒業が不可となる。

(成績)

第7条 学則第34条に定める成績は、下記の評価基準により認定する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
100～90点	S	合格	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80点	A		学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点	B		学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60点	C		学習目標の最低限は満たしている (Pass)
60点未満	D	不合格	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)

2 学則以外に定める評価は、下記の基準により実施する。

評価点等	評語	合否等	評価基準
試験欠席	E	不合格	試験不受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄	F		出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	N	認定	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)

(綜合成績評価)

第8条 前条の成績の評価に対して次の各号に掲げるグレード・ポイント(以下「GP」という。)を設定し、不合格の授業科目を含めて、履修科目のグレード・ポイントの平均(グレード・ポイント・アベレージ(以下「GPA」という。))を算出し、綜合成績評価を行う。

評語	GP
S	4.0
A	3.0
B	2.0
C	1.0
D	0
E	0
F	0
N	対象外

2 GPAを算出する基準は、次のとおりとする。

$$GPA = \frac{\text{授業科目で得た GP} \times \text{その授業科目の単位数}}{\text{履修登録した授業科目の単位数の総和}}$$

3 成績証明書には、GPAは明記しない。

4 GPA対象外授業科目は、次のとおりとする。

- (1)成績の評価点が認定となる科目
- (2)定められた期間に履修取り消しの手続きをした科目
- (3)その他、卒業要件に算入されない科目

(学芸員養成課程)

第9条 卒業の認定を受ける学生が博物館法及び同法施行規則に定める所要の単位を修得したときには、学芸員の資格を得ることができる。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、環境科学部教授会の議を経て、学長が決定する。

附則 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附則 この規程は、令和5年4月1日から施行する。

環境科学部環境データサイエンス学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
			必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	人間環境学	1	2			
	基礎ゼミナールⅠ	1	2			
	基礎ゼミナールⅡ	1	2			
	海外大学単位互換科目Ⅰ	1		2		
	海外大学単位互換科目Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目A-Ⅰ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅱ	2		2		
	単位互換履修生科目A-Ⅲ	2		2		
	単位互換履修生科目B-Ⅰ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅱ	2		4		
	単位互換履修生科目B-Ⅲ	2		4		
	単位互換履修生科目C-Ⅰ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅱ	2		1		
	単位互換履修生科目C-Ⅲ	2		1		
	キャリアデザイン	1	2			
	ビジネスコミュニケーション	3		2		
	キャリア形成演習	3		1		
	情報処理実習Ⅰ	1	1			
	情報処理実習Ⅱ	1	1			
	スポーツ実習	1		1		
	英語Ⅰ	1	2			
	英語Ⅱ	1	2			
	英語Ⅲ	2		2		
	英語Ⅳ	2		2		
	英会話Ⅰ	1		2		
	英会話Ⅱ	1		2		
	ドイツ語Ⅰ	1		2		
	ドイツ語Ⅱ	1		2		
	日本語表現論	1		2		
	芸術文化論	1		2		
	言語学	1		2		
	キャリア教養基礎	1		1		
	SDGs概論	1	2			オムニバス
	地域環境ガバナンス	3		2		
	ビジネス英語	2		2		
	生涯学習を考える	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館概論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館経営論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館資料論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館資料保存論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館展示論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館教育論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館情報・メディア論	2		2		※学芸員養成課程必修
	博物館実習	3		3		※学芸員養成課程必修
	臨床心理学概論	1		2		
教育・学校心理学	1		2			
人間存在論	1		2			
学習・言語心理学	2		2			
社会・集団・家族心理学	2		2			
知覚・認知心理学	2		2			
法と倫理	2		2			
感情・人格心理学	2		2			
産業・組織心理学	3		2			

環境科学部環境データサイエンス学科【別表1】

	授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考			
			必修	選択	自由				
授業科目の概要	環境データサイエンス共通科目	環境情報リテラシー	1	2					
		三河に学ぶ	1	1					
		社会環境調査概論	1	2					
		環境情報と社会	1	2					
		環境リサーチ&プランニング	1	2					
		データサイエンス概論	2	2					
		社会環境調査法Ⅰ	2	1					
		社会環境調査法Ⅱ	2	1					
		農業・情報キャリア論	2	2					
		学術文献講読Ⅰ	2	2					
		学術文献講読Ⅱ	2	2					
		環境データサイエンス演習Ⅰ	3	2					
		環境データサイエンス演習Ⅱ	3	2					
		環境データサイエンス演習Ⅲ	4	2					
		環境データサイエンス演習Ⅳ	4	2					
		環境センシング実習	3	1					
		海外エコ・フィールド社会実習	2		4				
		地域エコ・フィールド社会実習	2		2				
		スマートアグリ概論	3		2				
		インターンシップ	3		1				
	環境データサイエンスプロジェクト	3	2						
	地方創生実習	2		1					
	環境データサイエンス科目	環境情報基本科目	環境リスク概論	1	2				
			基礎数学	1	2				
			環境統計解析学基礎	2	4				
			環境プログラミング基礎	2	4				
			環境調査分析	2	2				
			環境データ循環学	2	2				
			地理空間情報学	3	2				
			環境ビッグデータ解析	3	2				
			人工知能と機械学習	3	2				
			環境情報展開科目	環境情報科目	Rプログラミング入門	1	2		
					情報メディア概論	2	2		
					環境統計解析学応用	2	2		
					環境プログラミング応用	3	2		
	物質循環解析	3			2				
	環境情報ビジネス実習	3			1				
	環境ビジュアルイゼーション	3			2				
	社会環境基本科目	社会環境科目	都市・自然環境IoT	3	2				
			環境データベース入門	3	2				
	社会環境基本科目	社会環境科目	サステナブルマネジメント	1	2				
			現代社会と経済	1	2				
			環境経済学入門	1	2				
エコツーリズム入門			2	4					
環境政策			2	2					
環境と開発			2	2					
グローバル化と地域社会			3	2					
食料安全保障と栄養			3	2					
環境社会学	3	2							
環境エネルギー論	3	2							

環境科学部環境データサイエンス学科【別表1】

			授業科目の名称	配当 年次	単位数			備考
					必修	選択	自由	
授 業 科 目 の 概 要	環 境 デ ー タ サ イ エ ン ス 科 目	社 会 環 境 展 開 科 目	環境倫理	1		2		オムニバス
			企業会計	1		4		
			新時代の国際貿易と環境リスク	2		2		
			国際協力論	2		2		
			経営データ・ESG投資分析	2		4		
			環境法制	2		2		
			環境と多文化共生	2		2		
			環境経済学史	3		2		
			環境経営	3		2		
			地球環境変動論	3		2		
	地域経済	3		2				
	フ ィ ー ル ド 生 態 科 目	生態系の機能と社会	1		2			
		自然地理学	1		2			
		海と川の生物学	1		2			
		基礎生態学	1		2			
		環境昆虫学	1		2			
		生態系における物質循環	1		2			
		海洋生態学	2		2			
		景観生態学	2		2			
		ビオトープ論	2		2			
		森林生態学	2		2			
		河川生態学	2		2			
		環境気象学	2		2			
		生物資源学	2		2			
		環境アセスメント論	3		2			
		卒業論文	4	6				

人間環境大学授業に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、人間環境大学学則および人間環境大学大学院学則にもとづく授業の実施に関し、必要な事項を定める。

(授業時間)

第2条 通常の授業時間は次のとおりとする。ただし、集中講義および変則授業時間は、学部、研究科でこれを定める。

学部・研究科 時限	人間環境学部/ 心理学部/ 環境科学部/ 人間環境学研究科	看護学部/ 看護学研究科	松山看護学部/ 松山看護学研究科	総合心理学部
第1時限	9:10~10:40	9:10~10:40	9:10~10:40	9:10~10:40
第2時限	10:50~12:20	10:50~12:20	10:50~12:20	10:50~12:20
第3時限	13:10~14:40	13:10~14:40	13:10~14:40	13:10~14:40
第4時限	14:50~16:20	14:50~16:20	14:50~16:20	14:50~16:20
第5時限	16:30~18:00	16:30~18:00	16:30~18:00	16:30~18:00
第6時限	—	18:10~19:40	18:10~19:40	—
第7時限	—	19:50~21:20	19:50~21:20	—

(気象警報が発令された場合およびその他の場合の授業の取扱)

第3条 暴風警報、暴風雪警報、または特別警報（高潮・波浪は除く）が発令された場合の授業の取り扱いは、別表1)のとおりとする。

なお、気象警報の発表、公共交通機関の運行への影響等を総合的に勘案し、学部長および研究科長の判断により、休講措置をとる場合がある。

(大規模地震の判定会が招集された場合の授業の取扱)

第4条 地震予知情報から「警戒宣言」の発令を検討する大規模地震の判定会が招集された場合は以下のように対応する。

(1) 判定会招集当日

- ・授業開始以前に招集された場合：授業は行わない。
- ・授業開始以後に招集された場合：招集があった時から授業は行わない。

(2) 判定会招集の翌日以降

- ・判定があるまで授業は行わない。

(3) 「警戒宣言」に至らないと判定された場合(防災準備行動をとる段階)を除く)

- ・午前6時まで判定された場合：平常の時間割のとおり授業を開始する。

(4) 「警戒宣言」が発令された場合および「防災準備行動をとる段階」と判断された場合

- ・解除されるまで授業は行わない。

(公共交通機関のストライキの場合)

第5条 公共交通機関でストライキの場合の授業の取り扱いは、別表2)のとおりとする。

(授業の休講・開始の情報)

第6条 第3条、4条、5条に関する授業の休講・開始については、学内掲示・学内放送・本学ホームページにより伝達する。ただし、これらにより伝達ができない場合があるときは、第4条および別表1・2に基づき、公共放送の情報から各自で適切に判断するものとする。

(公欠の定義)

第7条 公欠とは、次の各号のいずれかに該当する場合とする。

- (1) 養護実習Ⅱおよび関係機関が行う事前オリエンテーション出席のために、授業を欠席する場合
- (2) 「裁判員の参加する刑事裁判に関する法律」にもとづき学生が裁判員としての任務を果たす場合など、公の行事に参加する場合
- (3) 「学校保健安全法施行規則」第18条に定められた感染症による社会的影響を考慮して、大学が出校停止を命じた場合
- (4) 天災・事故等による公共交通機関の運休又は遅延(第3条の警報の解除、第4条の警戒宣言等の解除、第5条のストライキの終了後も続く公共交通機関の運休又は遅延、および第3条の警報の解除後も居住地域で警報が解除されないことによる公共交通機関の運休又は遅延を含む)によって授業を欠席した場合。
- (5) 第3条の警報が居住地域で発令され、出校できず授業を欠席した場合
- (6) 忌引きの場合
- (7) 教授会において、第1項第1号～第6号に準じて特段の取り扱いが必要であると認められた場合

(公欠の期間)

第8条 公欠を許可する期間は、次のとおりとする。

- (1) 前条第1号にあつては、実習に要する期間
- (2) 前条第2号にあつては、裁判所などの公の機関から指定された期間
- (3) 前条第3号にあつては、感染症による社会的影響を考慮して大学が出校停止を命じた期間
- (4) 前条第4号にあつては、当該公共交通機関の運行開始(遅延運行を含む)から2時間までとする。
- (5) 前条第5号にあつては当該居住地の警報解除から2時間とする。
- (6) 前条第6号にあつては、以下の期間

配偶者	夫・妻	10日以内
血族	1親等	7日以内
	2親等	3日以内
	3親等	1日以内
姻族	1親等	3日以内
	2親等および3親等	1日以内

- (7) 前条第7号にあつては、教学委員会(看護学部は教学・臨地実習委員会)において必要と認められた期間

2 学部長または研究科長は、遠隔地の場合またはその他特別の事由があると認めた場合、前項の日数に必要な日数を加えることができる。

(公欠の手続)

第9条 公欠の適用を受けようとする者は、次の手続を行わなければならない。

- (1) 第7条第1号、第2号または第5号にあつては、事前に所定の「欠席届(公欠願)」および期間が明記された「受け入れ先からの正式書類」を教務課に提出する。
- (2) 第7条第3号にあつては、所定の「欠席届(公欠願)」および期間が明記された医師が作成した「治癒証明書」又は「診断書」を教務課に提出する。
- (3) 第7条第4号にあつては、所定の「欠席届(公欠願)」および当該公共交通機関の運休により終日登校できない場合を除き、当該機関が発行する「遅延証明書」を教務課へ提出する。
- (4) 第7条第5号にあつては所定の「欠席届(公欠願)」を教務課へ提出する。
- (5) 第7条第6号にあつては、所定の「忌引願」および葬儀日等が明記された「会葬礼状」等の書類を教務課に提出する。

2 学部長または研究科長は、提出された書類の審査を行い、許可を決定した場合は、大学事務局より授業担当教員へ連絡する。

(公欠による授業の取扱)

第10条 授業担当者は、補講もしくは課題等を与えることにより、公欠を許可された期間を出席とすることができる。

(規程の改廃)

第 11 条 この規程の改廃は、運営会議の議を経て、学長が決定する。

附 則 この規程は、平成 25 年 12 月 18 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、平成 28 年 8 月 31 日から施行する。

附 則 1. この規程 (改正) は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2. 第 7 条第 1 号の規定は、平成 28 年度以前の入学生については改正後の規定にかかわらず、なお従前のとおりとする。

附 則 この規程 (改正) は、平成 30 年 8 月 22 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和元年 11 月 20 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 この規程 (改正) は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1)

<人間環境学部、心理学部、環境科学部および人間環境学研究科>

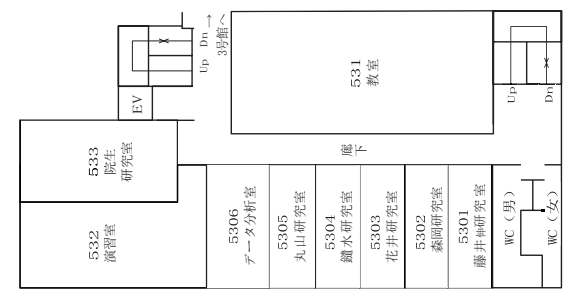
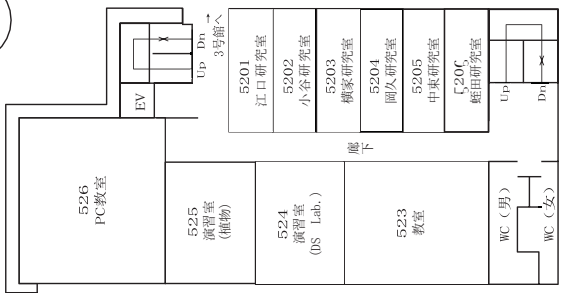
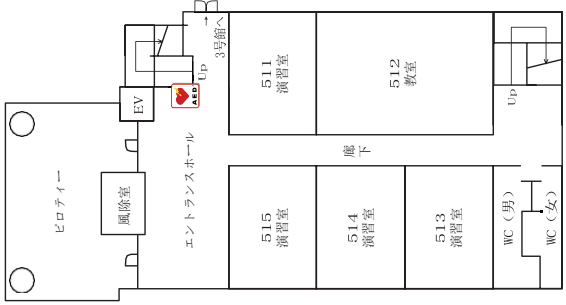
休講とする場合	1 愛知県西部のうち下表のいずれかの地域に暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が発令されている場合。				
	愛知県西部	<table border="1"> <tr> <td>知多地域</td> <td>半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町</td> </tr> <tr> <td>西三河南部</td> <td>岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町</td> </tr> </table>	知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町	西三河南部
知多地域	半田市、常滑市、東海市、大府市、知多市、阿久比町、東浦町、南知多町、美浜町、武豊町				
西三河南部	岡崎市、碧南市、刈谷市、安城市、西尾市、知立市、高浜市、幸田町				
	2 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 11 時までに解除されない場合。				
暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) 解除に伴う授業の開始	<p>1 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 7 時までに解除された場合、平常の時間割のとおり授業を開始する。</p> <p>2 暴風警報、暴風雪警報または特別警報 (高潮・波浪を除く) が午前 11 時までに解除された場合、平常の時間割のとおり午後から授業を開始する。</p>				

別表 2)

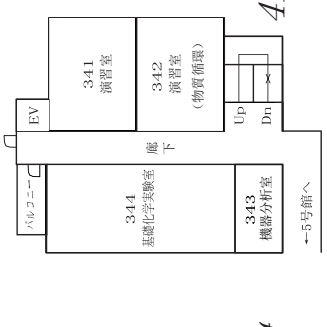
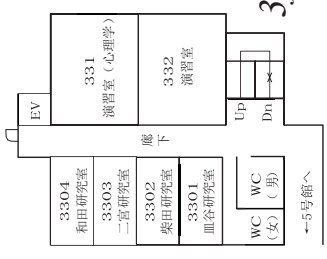
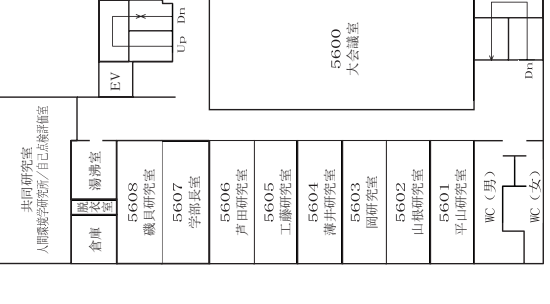
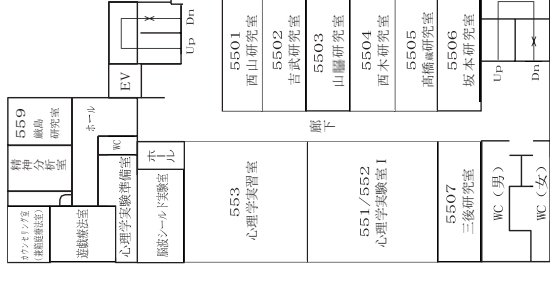
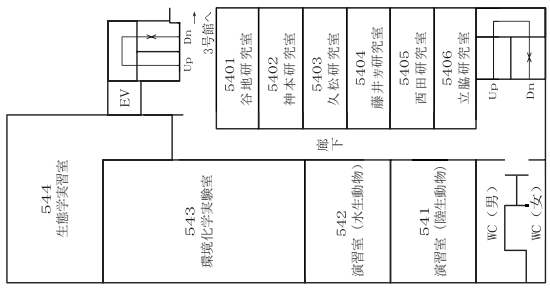
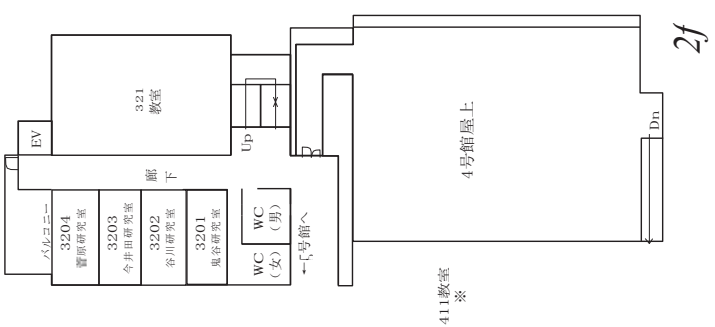
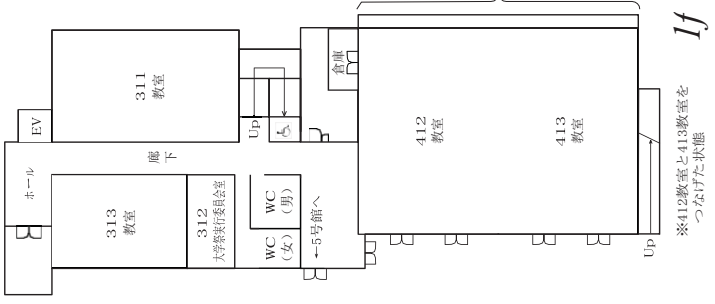
<人間環境学部、心理学部、環境科学部および人間環境学研究科>

休講とする場合	名古屋鉄道が運行停止となったとき	
ストライキ終了に伴う授業の開始	名古屋鉄道が運行を再開した場合は、運行再開時間にもとづき、授業を開始する	
	運行再開時間	授業開始時限
	7:00 まで	第 1 時限
	9:00 まで	第 2 時限
	11:00 まで	第 3 時限
	13:00 まで	第 4 時限
	14:00 まで	第 5 時限

5号館



3号館 (講義棟) / 4号館



5号館

